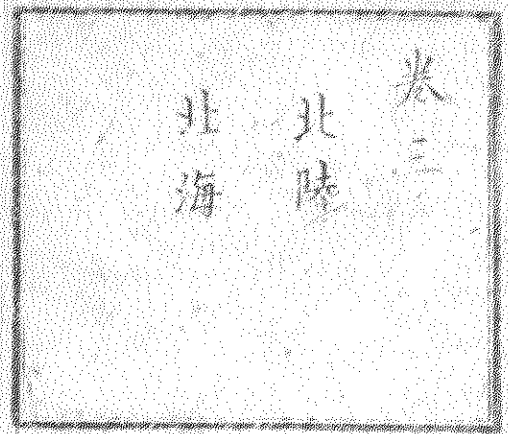


日本地誌要畧

大槻修三編

三



田中澄太郎有

T1A1  
28  
I 76

大槻修編



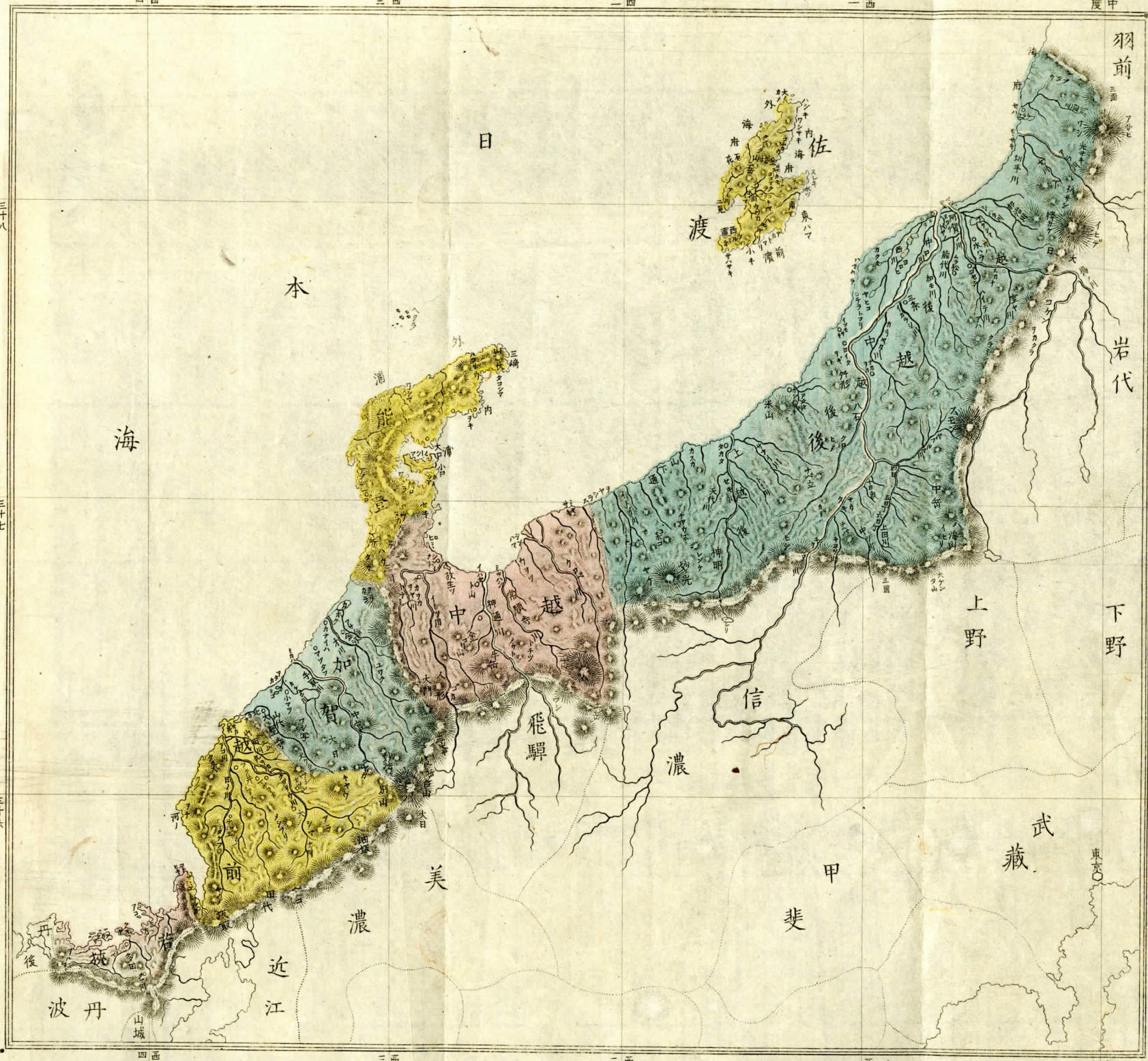
日本地誌要略

明治九年育

青山紅樹書樓藏版

北陸道全圖





羽前

岩代

下野

上野

武蔵

甲斐

濃

信

飛騨

越中

美濃

近江

丹波

本

海

日

渡

佐

外

府

市

町

村

東

山

小

前

河

川

池

湖

沼

津

浜

港

湾

岬

島

瀬

崎

津

浜

港

湾

岬

島

瀬

崎

津

浜

港

湾

岬

島

瀬

崎

津

浜

港

湾

岬

島

瀬

崎

津

浜

港

湾

岬

島

瀬

崎

津

浜

港

湾

岬

島

瀬

崎

津

浜

港

湾

岬

島

瀬

崎

津

浜

港

湾

岬

島

瀬

崎

津

浜

港

湾

岬

島

瀬

崎

津

浜

港

湾

岬

島

瀬

崎

津

浜

港

湾

岬

島

瀬

崎

津

浜

港

湾

岬

島

瀬

崎

津

浜

港

湾

岬

島

瀬

崎

津

浜

港

湾

岬

島

瀬

崎

津

浜

港

湾

岬

島

瀬

崎

津

浜

港

湾

岬

島

瀬

崎

津

浜

港

湾

岬

島

瀬

崎

津

浜

港

湾

岬

島

瀬

崎

津

浜

港

湾

岬

島

瀬

崎

津

浜

港

湾

岬

島

瀬

崎

津

浜

港

湾

岬

島

瀬

崎

津

浜

港

湾

岬

島

瀬

崎

津

浜

港

湾

岬

島

瀬

崎

津

浜

港

湾

岬

島

瀬

崎

津

浜

港

湾

岬

島

瀬

崎

津

浜

港

湾

岬

島

瀬

崎

津

浜

港

湾

岬

島

瀬

崎

津

浜

港

湾

岬

島

瀬

崎

津

浜

港

湾

岬

島

瀬

崎

津

浜

港

湾

岬

島

瀬

崎

津

浜

港

湾

岬

島

瀬

崎

津

浜

港

湾

岬

島

瀬

崎

津

浜

港

湾

岬

島

瀬

崎

津

浜

港

湾

岬

島

瀬

崎

津

浜

港

湾

岬

島

瀬

崎

津

浜

港

湾

岬

島

瀬

崎

津

浜

港

湾

岬

島

瀬

崎

津

浜

港

湾

岬

島

瀬

崎

津

浜

港

湾

岬

島

瀬



日本地誌要略卷之三

大槻修二 編

北陸道

若狹越前加賀能登越中越後佐渡ノ七國ヲ北陸道トナ  
ス、西北ハ、其ニ日本海ニ向ヒ、其海水潮汐ノ干満少シ、東  
南ハ、大山脈圍ミ亘リテ、東山道ト向背ヲナシ、僅ニ峻路  
險坂ヲ通ズルノミ、西端ハ、山陰道ニ接シ、東隅ハ、奥羽ニ  
界ス、其間百五十里、南北ノ幅員ハ、山海相逼リ、其最狹キ  
處八十里ニ過ギザレド、亦三十里ノ廣處ニ及ク者アリ、  
白山立山ノ二高山、相並ヒテ中央ニ對立ス、即全國ノ名



梁ニ亘ル大山脈中ノ最大岳ニシテ、白山ノ脈北ニ走リ、  
海上ニ突出シテ、能登ノ半島國ヲナス、仍テ、全道ノ地勢  
ヲ限ル、立山ノ脈ノ海岸ニ至ル者ハ、數里ニシテ、切斷シ、  
其岸ヲ、親不知ノ險トナス、佐渡ハ、其海上ニ峙ツ、一孤島  
タリ、○抑越前以下ハ、兩羽陸奥ニ亘リテ、上世越國ト呼  
ビ、佐渡モ、亦越洲ノ稱アリ、土化ノ及フニ從ヒ、上夷ノ内  
附スル者、相繼キ、孝德帝ノ時、境ヲ開ク、漸廣ク、大化三年、  
淳足柵ヲ置キ、明年石舟柵ヲ置ク、今ノ沼垂岩船是ナリ、  
天武帝特ニ諸國ノ疆界ヲ定ム、三越ノ今國ハ、蓋州時ニ  
テ、白山ノ脈ヲ以テ、前中ノ經界トシ、二柵以北ノ地ヲ、泛

稱シテ、越後トナセリ、又武帝屢石舟柵ヲ修治セシメ、大  
寶二年、越中ノ四郡ヲ屬シテ、立山ノ脈ヲ、中後ノ今界ト  
定ム、元明帝大ニ奥越ノ兩夷ヲ征シ、和銅元年、境ヲ進メ  
テ、出羽柵ヲ置キ、五年建テ、國トナス、茲ニ於テ、越後ノ  
境界、始テ定ル、養老二年、越前ヲ割キテ、能登國ヲ建テシ  
ガ、二十三年ヲ歷テ、天平十三年、是ヲ越中ニ合セテ、並ニ  
佐渡ヲ越後ニ合ス、孝謙帝ノ時ニ至リ、二國皆舊ニ依リ  
テ、再置ス、其後五十六年ヲ過キ、復越前ヲ割キテ、加賀國  
ヲ建ツ、寶仁弘仁四年、是ヲ中古今國ノ最尾トス、  
若狹ハ、遠敷大飯三方ノ三郡ナリ、

全道ノ西端ニ居ル小國ニシテ、越前其前ヲ擁シ、丹後其  
後ヲ圍ム、南ハ山脈ヲ限リテ、近江丹波ニ接ス、海岸ノ中  
央ニ、大灣アリ、小濱入江ト云フ、松崎東ヨリ出デ、久須夜  
岳、其岬上ニ峙チテ、灣ノ前面ヲ抱ク、赤栗崎西ヨリ出デ、  
岳端ト、海ロヲ夾ム、其間一里、灣内周回十四里、南川丹波  
ノ界ヨリ來リ、北川近江ノ境ニ發シ、其ニ小濱ニ至リテ、  
海ニ入ル、小濱ハ、一都會ニシテ、灣ノ南岸ニ臨ミ、北運ノ  
舟舶、常ニ輻湊シテ、北海ノ良港ト稱ス、多田岳、後瀨山、相  
其ニ、城中ノ南背ニ並ヒ、其後山相重リテ、國界ニ連ル、山  
間ノ一邑ハ、熊川ト云フ、東近江ニ接ス、○入海ヨリ西ハ、

押廻崎、高濱浦等、岬灣出入スレド、舟泊ノ地ナク、直ニ丹  
後ニ亘リ、青葉山高ク聳エテ、國境ヲナス、

三方湖ハ、上中下ニ分レ、水流連接シテ、北ニ下リ、海濱復  
小湖ヲナス、日向湖ト呼ビ、遂ニ早瀨浦ニ注ギ入ル、三方  
ハ、三瀨ナリ、郡名ノ起原、實ニ此湖ニ由ル、凡北海沿岸ノ  
湖沼、皆瀨ト呼フ、羽後ノ象潟ハ、即瀨及陸奥ノ十三瀨、以  
テ、上世同國ノ證ヲ見ル可シ、○郡ノ岸ハ、三神山海中ニ  
峙チ、遊子岬突出シテ、常神浦島山ト相對ス、其沿岸勝景  
ノ地多シ、美々川南ヨリ來リ、湖口ノ東北ニ落ツ、佐垣丹  
生ノ諸瀨、其東ニ連リ、琴引岬出デ、越前ノ境ヲ限ル、



越前ハ、八郡ニシテ、敦賀今立、南條、丹生、足羽、吉田、大野、坂井トス。

在昔繼體帝ノ登祚セザルヤ、母氏ニ從ヒテ、此國ニ居リ、常ニ水理ノ治ラサルヲ憂ヘ、川道ヲ疏通シテ、東北ノ海港ヲ開キシト、坂井港是ナリ、其水ノ長大ナル者三條、皆東南ヨリ流れ、各方ノ諸流ヲ并セ、下流相集リテ、一大河ヲナシ、遂ニ其海港ニ注入ス、其一ヲ、日野川ト云ヒ、又、白鬼女川ト云フ、源ヲ近江ノ界ニ發シ、歸川ヲ并セテ、北ニ下リ、武生ニ至リ、始テ舟楫ヲ通ズ、淺水川、南ヨリ流れ入ル、水流角折ニ至リテ、足羽川ニ會シ、是ヨリ安居川ト呼

ブ、更ニ下リテ、九頭龍川ニ會シ、水勢益大ナリ、竹田川ヲ并セ、二十里ニシテ、坂井港ニ注ク、其二ヲ、足羽川トナス、田代部子ノ諸山ヨリ出ツル者、相集リテ、北ニ下ル十餘里、味見、蘆見ノ諸川ヲ并セテ、福井ヲ過ク、城市ノ中間ニ、九十九橋ヲ架ク、橋下、既ニ舟運アリ、一里ニシテ、角折ニ會ス、其三ハ、即、九頭龍川ナリ、其流十五里、別山ニ發スル者ヲ、正源トナス、油坂川、伊勢川等、集合シテ、荒島岳ノ麓ヲ遠リ、兩岸相逼ルニ丈餘、真名川、南ヨリ會流シテ、水勢始テ大ナリ、鷲岳ノ下ヲ過キ、今レテ、飯島ヲ夾ム、其相合ヒテ、西下スルヤ、行舟下流ニ達ス可シ、又、五領島ヲ抱キ、

再集リテ、福井ノ東郭外ヲ流レ、舟橋ヲ架ク、故ニ舟橋川ト云フ、船數四十八隻、越中陸中ト、三舟橋ノ稱アリ、漸下リテ、安居川會ス、三川既ニ大ナリ、其一道トナルヤ、河幅二百間、是ノ北陸七大河ノ其一トナス、

國中、山多ク、惟安居川ノ兩岸ヨリ、海濱ニ亘リテ、僅ニ平野ヲ得ルノミ、東南隅ハ、山岳重疊シテ、飛驒美濃加賀ト相接シ、白山其北ニ秀テ、大日岳其南ニ聳エテ、道路ヲ通ヒバ、白山ノ一峯、別立スル者ヲ、別山トナス、打波蠅干ノ諸岳、相重リ、荒島岳特ニ峻秀ニシテ、飯降山其西ニ並バ、加賀ノ境ハ、兜山、經岳等、鷲岳ニ接シ、丈鏡、火焰ノ諸山、一

帶相連リ、其脈盡クル處ハ、即平野ノ東南ニ當レリ、其美濃ノ境ニ亘ル者ハ、其ニ高山峻嶺ニシテ、油坂嶺、部子岳、田代山、冠岳等、相連リテ、西南ニ走リ、其隅ヲ近江ノ界トナス、板取峠、國境ニ聳エテ、北陸ノ官道ニ當ル、木芽峠其北ニ連リ、歸山、湯尾峠等ノ脈ヲ起シ、海岸ニ沿ヒテ、東北ニ赴キ、綠青、越智、國見、高須ノ諸山、並列シテ、坂井港ノ西ニ絶ユ、中央モ、日野、白椿、文珠、吉野、永平寺山等、各方ニ峙チ、村里多ク、其山間ニ在リ、

坂井港ハ、舊名ヲ、三國ト云フ、安島崎、河口ヲ擁シテ、港灣ヲトメ、亦北海中ノ良泊ナリ、米脇、瀧谷ノ諸浦、相連リ、雄



島海上ニ峙テ、頗勝景ノ地タリ、其東北ニ、北爲アリ、周圍五里、加賀ノ界ニ亘リ、湖口頗廣シ、故ニ入江ト呼フ、大聖寺川西流シ、下流ト共ニ海ニ入ル、仍テ界川ノ稱アリ、福井ハ、中央ノ一都會、坂井港ヘ舟程六里、運輸其便ナリ、大野勝山ノ兩城市ハ、九頭龍川上流ノ山間ニ在リ、九頭松岡ハ、其下流ヲ夾ミテ、地勢漸平坦ナリ、武生鯖江ハ、日野川ノ兩岸ニ對シテ、官道中ノ城市トス、抑此國ハ、北國ノ咽喉ニシテ、常ニ戰要ニ當ル、木曾義仲ノ越城ニ敗レ、小生保ノ義兵ヲ杣山ニ擧ケ、新田氏ノ黑丸ヲ保チテ、藤島ニ戰死セル等、今尚舊跡ヲ各地ニ存ス、朝倉氏世々一

乘谷ニ居リテ、此國ヲ領ス、然レ姊川ノ一敗、遂ニ其地ヲ失フ、柴田勝家代リ來リテ、北莊ニ築キタレド、亦賤岳ノ潰ヨリ、國忽滅亡ニ就ク、北莊ハ、即福井ノ舊稱ナリ、敦賀郡ハ、南隅ニ在リ、海水深ク入りテ、一大灣ヲナス、西岬突出スル五里、榮螺岳其端ニ峙テ、若狹ノ界ヲ限ル、敦賀ノ港市、頗繁盛ニシテ、舟舶常ニ輻湊ス、其北運ノ物貨ハ、多ク此地ヨリ、近江ノ湖水ヲ漕輸シテ、大坂ニ轉致ス、是ヲ小廻ト云フ、蓋中國ヲ廻航スル者ヲ、大廻ト呼フ、故ニ運輸ノ便、碇泊ノ利、實ニ北海第一ノ大港ナリ、此地古ハ角鹿ト云ヒ、仲哀帝嘗テ行宮ヲ茲ニ建ツ、氣比宮ハ、

即帝ヲ奉祀セル處ナリ、東ニ金崎アリ、南北朝ノ時、尊良親王、新田義顯ト共ニ命ヲ賊軍ニ殞シ、跡タリ、荒乳山其南隅ニ峙チ、山中越テ近江ノ界トナス、荒乳ハ、愛發ニシテ、中古三關ノ其一ナリ、○木芽峠ノ山脈、郡ノ東北ヲ限リ、其沿岸ノ諸濱ハ、山ヲ負ヒ、海ニ臨ミ、河野蒲生等、相連リテ、遂ニ東北ノ海港ニ達ス、其間二十餘里、岩礁相並ヒテ、又舟泊ノ地ナシ、

加賀ハ、江沼能美石川、河北ノ四郡ナリ、

白山ハ、北陸第一ノ大岳ニシテ、富士立山ト、三高山ト稱ス、全峯ノ白雪、終歲消エズ、故ニ此名アリ、國ノ正南ニ立

矢面ニ別山アリ、東ニ劍岳アリ、群峯其下ニ聳ルテ、人跡道路ノシ、國境ノ連山、皆是ヨリ起リテ、東西ヲ圍ミ成ス、釋迦無妙法山等、西ニ亘リ、大日山トナリ、富士寫岳トナリテ、越前ノ境ヲ限ル、飛騨ノ境ハ、最重峻ニシテ、笈岳池三峯等、並立シ、一帯ノ山脈、北ニ走リテ、越中ノ界ニ亘ル者ハ、即、上世前中兩越ノ經界ナリ、醫王山ニ、俣山寶坂嶺等、相列リ、其隅ヲ、栗殼嶺トス、直ニ能登ニ入リテ、三國山ニ接ス、○國中ハ、沿海ノ地、悉平坦ニシテ、其幅七八里、以南ハ、山多ク、温泉其間ニ沸キ、西方ニ、山代山中、粟津ノ三湯アリ、中央ヲ、中宮トナシ、而テ東隅ヲ、湯涌ト云フ、



手取川ハ、兩源ヲ白山ニ發シ、相合ヒテ、中央ヲ直下シ、北ニ流ル、二十里、美川港ニ注ク、亦北陸七河ノ一、才川、淺野川、其ニ東南ノ山脈ニ出テ、各西北ニ下リ、金澤ノ城市ノ夾ミ、才川ハ、直ニ海ニ入ル、其流十三里、淺野川ハ、九里、北ニ轉シテ、河北潟ニ入ル、○大聖寺川ハ、大日岳ノ西麓ニ出テ、西北ニ下リ、南ニ折レテ、越前ノ界川トナル、長流手取川ニ次ク、梯川モ、亦岳ノ北麓ヨリ來リ、環流十餘里、小松ヲ過キ、安宅港ニ入ル、故ニ安宅川ト云フ、海岸十八里、岬角トク、島嶼トク、岩礁ナシ、而テ、港灣ノ地、又、和子岬ニ傳ニ、美川、安宅、及金石ノ三港アレハ、共ニ大

船ヲ繫ク能ハズ、金石ハ、才川ノ海口ニシテ、大野宮腰ノ二邑ノ并稱シ、舟泊他ノ二港ニ超ユ、河北潟、其東ニアリ、周圍六里、八田潟ハ、云ノ、下流、亦同港ニ注ク、○今江木場、柴山ノ三潟ハ、水流相通シ、西隅ノ海濱ニ接シ、三湖ト稱ス、共ニ安宅港ニ入ル、海口ノ西北ヲ、篠原トナス、即、平惟盛ガ、敗ヲ木曾氏ニ取リシ處ナリ、松林一帯、吉崎、蓮浦等、相連リテ、北潟ノ岸ニ至ル、即、界川ノ海口ナリ、金澤ハ、北方ノ一大都會ニシテ、其繁盛ナルヲ、名古屋ニ次ク、人口十萬、街市連接シ、金石港ト、相距ル一里、運輸大ニ其便ヲ得タリ、舊名ヲ尾山ト云フ、上杉謙信ノ越中能

登ヲ并セテ、西向スルヤ、織田氏其鋒ヲ爭ヒ、松任、小松ノ諸城ト、共ニ相攻取セシ處ナリシガ、前田氏其三國ヲ全領スル時、居城ヲ茲ニ定メテ、今稱ニ改ムト云フ、

能登、亦四郡ニシテ、羽喰鹿島ヲ口郡ト云ヒ、鳳至、珠洲ヲ、奥郡ト云フ、

國勢ニ大半島ヲナシテ、北海上ニ突出スル三十餘里、猶東海ノ伊豆ノ如シ、惟中央ヨリ折レテ、東ニ向ヒ、其端ニ大岬ヲナシ、佐渡島ト相對ス、中間三十里、蓋白山ノ脈、南ヨリ來ル者、茲ニ至リテ斷ツ、是ヲ能登御崎ト云フ、○岬ヨリ西南ヲ外浦ト呼ヒ、加賀越前ト、一帯ノ海濱ヲナス、

岬ヨリ東南ハ、地勢彎曲シテ、越中、越後ト相向フ、沿岸ニ、九十九入アリ、ヒ尾入江アリ、總稱シテ内浦ト云フ、

三國山ハ、南境ヲ擁シテ、加賀、越中ノ間ニ立ツ、寶達山其脈ヲ承ケテ、最峻秀ナリ、鷹爪山別所岳等相並ヒ、石動山其東ニ聳エテ、越中ニ跨ル、而テ國ノ背脊ニ巨ル者、鷲巢法龍、諸山ニシテ、東ニ赴キ、山伏山高ク峙ツ、其端ハ、即御崎ナリ、三岬並出シテ、巨岩絶壁、屹立スル十餘丈、金剛崎最峻峻ナリ、郡名ニ依リテ、珠洲崎ト總稱ス、岬前ハ、岩礁沙洲隱現相列リ、海濤極テ奔激ナリ、北運ノ舟舶、歲々損破ノ害ニ逢フ者、甚多ク、相戒メテ、第一ノ危險トナス、

内外浦ハ、共ニ舟泊ノ處多ク、而テ港灣ノ景、皆其奇勝ヲ賞ス可シ、然レ海上ハ、尚暗礁冥洲、相亘リ、舟行甚困ムト云フ、○外浦ハ、沿岸四十里、西北ノ兩面ヲ開キ、北ニ向フ處ハ、辰崎出テ、輪島港ヲ擁ス、其海上、十餘里ニ、舳倉島アリ、周囲、一里餘、平生居民ナシ、而テ漁獵ノ場タリ、數島其傍ニ散布ス、故ニ七島ト呼フ、○福浦、阿武屋ハ、西向ノ港ニシテ、福浦ニ、大瀬、小瀬ノ兩泊アリ、是ヨリ南岸七里、加賀ノ境ニ達ス、羽喰川東ヨリ流レ來リテ、其中間ニ注ク、河口ノ北、一宮トナシ、南ヲ令濱トナス、

國中大河ノシ、子浦川ハ、寶達山ニ出デ、邑知爲ノ下流

ト、共ニ海ニ入ル、羽喰川是ナリ、邑知爲ハ、周囲、三里、千路沼ト云ヒ、又羽喰島トモ呼フ、此他、諸川ノ外浦ニ注ク者、大海風至、深見等ニシテ、其南隅ノ神代川、漸大ナリ、寶達川ト云フ、亦源ノ同山ニ發スル者ナリ、

七尾入江ハ、東南隅ノ大灣ニシテ、沿回、三十里、能登島其正中ニ横リ、周岸十六里、島地ト呼フ、灣口ハ、島ノ東端ト、相夾ミテ、南北兩峽アリ、南口、漸小ナリ、海小口ト云フ、北口、頗大ナリ、海大口ト云フ、灣内モ、亦島ノ西南端ト、三口、屏風崎等々、海峽殊ニ狹シ、屏風崎ハ、南屏風、後屏風等、兩崖共ニ絶壁ニシテ、其西南海中ニ、和倉溫泉湧キ出ツ、頗

有名ノ浴場タリ、○所口ハ、灣ノ東南ナル良港ニシテ、港内一里、南北是ニ倍ス、舟泊ノ安穩ナルヲハ、北海第一ト稱ス、石動山ノ脈、其東南ニ亘リ、直ニ海岸ニ至ル、其端ノ角島ト云フ、即、小口ノ南角ナリ、此地、元七尾ト云ヒ、畠山氏世々、此國ヲ領ヒシ居城地タリ、遊佐彈正ノ其子、義隆ヲ弑スルヤ、上杉氏來リ討シ、彈正ヲ誅シテ、其屬領トス、實ニ天正二年九月十三日ナリ、○麥浦、乙、崎ノ諸港ハ、共ニ大口峽内ニアリ、峽外ハ、甲、宇出津ノ兩港相列リ、以此ハ、謂ル九十九入ニシテ、浦トシテ、舟泊ノ地ナラザルナリ、小木、最良港タリ、是ヨリ北岸十一里、御崎ニ達ス、蛸

島、其岬陰ニアリ、是ヲ内浦諸港ノ最北トナス、

越中ハ、礪波、射水、婦負、新川ニシテ、亦復四郡ナリ、

北陸ノ七大河、國中四川アリ、而テ神通川、最大ナリ、飛驒ヨリ來リ、國ノ中央ヲ北流シ、篠津山田ノ諸川ヲ并セテ、水勢益大ナリ、奔流直下シテ、橋梁ヲ施ス能ハズ、故ニ官道ニ、浮橋ヲ設ク、富山ノ東郭ニ、六十四舟ヲ列ネテ、往來ヲ通ク、即、三舟橋ノ第一タリ、更ニ下ルニ、二里、海口ヲ、東岩瀬ト云フ、源ヨリ五十里、國界ヨリ三十里、下流ノ幅二百五十間、信濃川ノ外、北國、此大河ナリ、○莊川ハ、上流ヲ雄神川ト云ヒ、下流ヲ、大門川ト云フ、郡名ヲ以テ、又、射水川



ト云フ、亦飛驒白川ノ末ニシテ、其流三十里、西隅ノ衆流ヲ并セ、北一下リテ、高岡ニ至リ、小矢部川ニ合ヒテ、新湊ニ入ル、小矢部川ハ、大門山ニ出テ、亦北流シテ、礪波山ノ麓ヨリ、東ニ折レテ、本川ニ入ル、亦二十里ノ長流タリ、○此他ノ二大河ハ、共ニ立山ノ奥ニ出ツ、其鷲羽岳ヨリ出テ、山陽ヲ流ル、者ヲ、常願寺川ト云ヒ、土岳ニ發シテ、山陰ヲ下ル者ヲ、黒部川ト云フ、黒部最大ナリ、東隅ヲ流ル、二十里、官道ニ、合本橋アリ、左右ヨリ層架シテ、柱杭ヲ用井バ、下流ハ、數派ニ分レテ、四十八瀬ト呼ブ、其本流ハ、直ニ新瀨ニ至リ、海ニ入ル、常願寺川モ、亦十八里、中央

ヲ西北ニ環流シテ、水橋港ニ入ル、兩河ノ間ニ、片貝早月ノ二川アリ、亦源ヲ同山ノ屬峯ニ出ス者トス、

立山モ、三高山ノ一ニシテ、東南隅ニ屹立シ、別山、劍岳、藥師岳、淨土岳等、重疊シテ、飛驒信濃ノ境ハ、人跡ヲ通ズル能ハザルヲ十餘里、且、噴火山ニシテ、峯頂常ニ硫烟ヲ吐キ、山中火坑多シ、四十八地獄ト云フ、其麓ニ、有峯、黒巖等ノ温泉アリ、小川ノ湯、浴客最多シ、其山脈東北ニ赴キ、十里ニシテ切斷ス、海岸ヲ、宮崎ト云フ、界川其東ヲ流ル、是ヲ、越後ノ境トナス、○朽津山、牛岳、祖父岳等、南方ニ並列シ、夫婦山、金剛堂山、其前ニ並ヒ、是ヨリ以北ハ、山圍漸開

クレド、西南ハ、白山ノ脈ヲ承ケテ、飛驒ト接スル處、五箇山、人形山等、相重リ、加賀ノ境ニ、大門山アリ、大牧、粗山ノ温泉アリ、連山一帯、北ニ赴キテ、地勢ノ經界ヲ限リ、其隅ヲ、礪波山トナシ、其嶺ヲ、栗殼峠ト云フ、又、俱利迦羅谷ト呼フ、壽永中、木曾氏ノ平軍ヲ鏖殺セシ處ニシテ、今尚源氏峯等ノ舊稱アリ、其脈東北ニ走リ、能登ノ界ニ、三國寶達、石動ノ諸山相亘リ、海岸ニ至リテ盡ク、

國ノ海岸ハ、彎曲シテ、一大灣ヲ成ス、正中ヲ、岩瀬港トシ、東二里ヲ、水橋トシ、又三里ヲ、魚津トシ、又東三里ヲ、新濱トス、是ヲ灣ノ東端トナス、更ニ沿岸五里ニシテ、界川ノ

海口ニ至ル、○冰見、放生津ノ兩灣ハ、灣ノ西北濱ナル、小湖ニシテ、周囲共ニ二里計、冰見稍小ナリ、又布施湖ト云フ、亦義仲ノ馬ヲ放シテ、其深淺ヲ驗セシ處ナリ、湖口ヲ、冰見港ト云ヒ、其沖ヲ、冰見海或ハ奈吳海ト云フ、唐島其海上ニ峙チ、其北ニ西島アリ、一國ノ海中、此島嶼ノミ、○放生津ノ湖口ハ、即莊川ノ海口ニシテ、伏木ト并ヒテ、新湊ト稱ス、北ハ冰見ヲ隔テ、南ハ岩瀬ヲ距ル、各三里、國中、第一ノ大港ナリ、古國府ノ湊ト、唱ヘシ者はナリ、

富山ハ、魚津、高岡ト、三大邑ト稱ス、上杉氏ノ北國ヲ攻取スルハ、此國其最先ノ地ナリ、謙信既ニ卒シ、景勝ノ嗣立

スルニ當リ、織田氏兵ヲ分チテ、深ク入ル、景勝河口長親ヲシテ、魚津ヲ守ラシム、佐々成政等、急ニ攻メテ、是ヲ陷ル、長親、孤守支ヘズ、遂ニ戰歿ス、成政仍テ沼城ヲ富山ニ築キシガ、豐臣氏ノ能登ヨリ、舟師來リ討スルニ及ヒ、國ヲ舉ケテ降服ス、城市今尚、一都會ヲナセリ、

越後ハ、七郡、頸城、魚沼、古志、三島、刈羽、蒲原、岩船ト云フ、刈羽ハ、三島ノ分郡ニテ、以上ヲ、大寶分割ノ、四郡トス、北陸中ノ大國ニシテ、四境ノ廣、實ニ全道ノ半ニ居ル、海岸七十餘里、米山、彌彦ノ兩山、相隔リテ、岸上ニ僻エ、仍テ國勢ヲ分ツ、兩山ノ際、一七里、中越後ト云フ、而テ、米山以

西ヲ上越後トシ、彌彦ヨリ東北ヲ、下越後ト呼フ、沿岸各三十里、以テ、三區別ノ稱ヲ建ツ、其中央以北ハ、大率平坦ニシテ、下越後ノ如キ、十餘里ノ平地アルニ至ル、

國境ハ、其ニ重山、深嶺、即全國ノ脊梁ナル連岳ニシテ、飯豐山、高カ東方ニ位シ、岩代、羽前ノ界ニ秀ツ、大山脈ノ由リテ起ル處ナリ、八差岳、大日岳、蒜場岳、榛掛山等、相重リ、國中第一ノ大岳トナス、山中ノ瀑布、二十丈ヨリ、五十丈ナリ、者、數十條、七瀧澤等ノ稱アリ、下流相集リテ、加治川トナル、二王寺、風倉、諏訪、五頭ノ諸山、接屬シテ、其前面ニ列明、阿賀川、荒川ノ兩河、其東西ノ峽谷ヲ流レ下ル、

以東岳ハ、即羽前ノ朝日岳ニシテ、五峯並ヒ聳テ、高峻相  
若ク、其別峯ノ三稜ヲナス者、三面山ト云フ光鷲山鷲  
巢山、其東ニ並立シ、日倉葡萄ノ諸山、其脈ヲ承ケテ、庄内  
ノ界ノ限ル、葡萄山ニ、西峯南峯アリ、山脈海岸ニ至リ、或  
ハ岩岬突出シ、或ハ絶壁直立ス、鳥越板貝ノ諸濱、其危険  
ヲ極メタリ、沿岸十里、是ヲ海府ト總稱ス、而テ、餘脈再海  
中ニ突起シ、粟生島高ク峙ツ相距ル十二里、島峯頗峻秀、  
小柴山ト云フ、周回四里、悉斷崖ニシテ、岩岬巨礁、並列散  
布シ、前濱僅ニ狹灣アリ、然ル此國ノ海上、惟此一島ナル  
ヲ以テ、北運ノ舟舶、常ニ風浪ヲ茲ニ避クト云フ、

守門岳ハ、東南ニ峙ツ大岳ナリ、山背ヲ岩代トナス、其會  
津ト相通ズル路ハ、六十里越、其南腹ヲ貫キ、八十里越、其  
東腰ヲ遶ル、群峯相集リテ、僅ニ谷間ノ一路ノミ、中央ノ  
水流、皆山中ニ發源ス、破間、五十嵐、刈谷田ノ諸川、其大ナ  
ル者ナリ、○五剣谷岳、御神樂岳、間見岳等ハ、飯豐守門兩  
大岳ノ間ニ並ヒ、高峻相若ク、粟岳、其前ニ秀テ、三峯並立  
ス、山中ノ大瀑布ヲ、三十三丈龍ト云フ、加茂川ノ源ニシ  
テ、室谷阜出、能代ノ三川モ、亦源ヲ此群山中ニ發ス、菅名  
岳、其北ニ屬シ、阿賀川ヲ夾ミテ、諏訪嶺ト對峙ス、  
南隅ハ、上野、信濃ニ接シ、三國峠、國界ニ峙チ、北陸官道ノ



大嶺タリ、東ハ大劍田山、飯土山、八海山等、並列シテ、守門  
岳ニ接ス、西ハ、苗場山高ク聳エ、雁峯、菱岳等、千曲川ヲ隔  
テ、相對シテ、國境ヲ擁ス、其溪流集リテ、瀧見川トナル、○  
西境ハ、立山及信濃ノ戸隠山ノ陰ニ接シ、妙高燒山ノ兩  
火山、互ニ硫烟ヲ吐ク、妙高山陰ニ、名位龍アリ、神明茶臼  
蓮華ノ諸山、其左右ニ重リテ、西隅ハ、天師山、鉾岳等、重疊  
最深クレテ、人跡ヲ絶ツ、仍テ、越中ト相通ズル處ハ、惟海  
濱ノ一路ノミ、沿岸十三里、是ヲ山下通ト云フ、姫川、信濃  
ヨリ、重山ノ間ヲ穿テ下リ、奔流頗駿激ナリ、海口ヲ、鯨魚  
川ノ城市トナス、蓋立山ノ連峯、信濃飛驒ノ際ニ起リテ、

北ニ走リ、海ニ觸レテ、其脈ヲ斷ツ、故ニ其崖下ノ路、宇多  
ヨリ、界川ノ海口ニ至ルニ里、外波風波ノ二村、崖腹ニ倚  
リテ、民居ヲ設ク、親不知ノ險、實ニ茲ニ在リ、斷崖ノ下、海  
潮ノ衝ニ當リ、奔濤來レハ、行人、忽洞陰ニ避ク、其退クヲ  
窺ヒテ、纔ニ克ク走步ス、其急ナルヤ、父子相救フニ暇ア  
ラズ、故ニ此名アリ、

千曲川ハ、其源流ノ出デ來ル處ヲ以テ、信濃川ト呼フ中  
土、無二ノ大川ニシテ、北陸七河ノ第一タリ、其長流ハ、北  
上利根兩河ノ上ニ出ヅレ、中間ニ、舟運ヲ絶ツヲ以テ、  
却テ、其便利ヲ缺クト云フ、國境ハ、大瀧ノ下流ニ當リ、河

中ニ岩石並立シテ、奔流瀑布ノ狀ヲナス者、數十處、其最大ナル者ヲ總瀧ト云フ、梓筏モ亦通スル能ハズ、中津清津ノ兩川ハ、遥ニ源ヲ上野ニ發シ、山谷ノ間ヲ貫キ、苗場山ノ左右ヲ遶リテ、各注キ入ル、本流東ニ赴ク十餘里、兩山ノ峽ヲ流レ、十日町ヲ過キ、川口ニ至リテ、上田川ヲ并ス、其合流ノ處ハ河道三、又ヲナシ、兩水相觸レテ、衝激旋廻ス、水勢是ヨリ益其大ヲ致シ、折レテ、北ニ下リ、小千谷ヲ過キテ、澁見川ヲ納レ、再東ニ轉シテ、長岡ニ至ル、山圍始テ解ケ、兩岸ノ地悉平坦ナリ、與板ニ傍ヒテ、又東北ニ赴キ、支川兩派ヲ分チ、刈谷田五十嵐加茂ノ三川ヲ并セ、

更ニ阿賀川ノ分流ヲ受ケ、河幅ノ大、水面五百間、漸北ニ轉シ、西川中口ノ兩支川、鎧堀ノ下流ト、西ヨリ來リ、栗木川、新川ハ、東ヨリ流レ、共ニ河口ニ注ク、其口ヲ新堀港トナス、國境ヨリ四十里、其源ヲ遡レハ、七十里ノ長ニ及フ、大小ノ諸川悉注入セザルナク、平野ノ間ナル湖沼皆合流ス、故ニ土俗八千八水ト呼ブ、○上田川ハ、魚野川トモ云フ、大劍田山ヨリ出デ、魚沼郡ノ中央ヲ流レ下ル、郡中ノ諸水悉合注ス、故ニ又郡名ヲ稱ス、北ニ赴ク十餘里、六日町、五日町ヲ過キ、四日町ニ至リ、破間川東下レテ、來リ會ス、仍テ爲ニ西ニ轉折シ、二里ニシテ、本川ニ入ル、即支

源中ノ最大ナル者ニシテ、其舟運ハ、六日町ヨリ、海口ニ至ル三十四里、河槽ノ利實ニ此川ニ依ルト云フ、阿賀川ハ、會津揚川ノ下流ニシテ、大山脈ノ中間ヲ貫キ下リ、津川ニ至リテ、室谷川ヲ并セ、始テ舟楫ノ便アリ、再菅名諏訪兩山ノ際ニ夾マレ、奔激六里、頗急流ナレ氏、峽間ヲ出ヅレバ、兩岸漸平遠ナリ、早出川ヲ納レテ、北ニ赴キ、下流ハ、加治川及福島潟等ヲ并セ、其幅四百間、國境ヨリ二十餘里ニシテ、海ニ入ル、昔時ハ、信濃川ニ會流シテ、其ニ新潟ニ注キシガ、兩大河ノ衝突ニ依リテ、歳々水害ヲ蒙ルヲ以テ、本川ヲ松崎ニ決シテ、始テ其災ヲ免ルト

云フ、然レ、尚中央ヨリ、一派ヲ西ニ今チ、能代川ト、共ニ信濃川ニ入ル者アリ、小阿賀川ト云フ、○凡大河ノ下流、平野ノ間ニ横流スル者、其岸邊必湖沼ヲ湛フ、利根川ノ印幡沼、手賀沼等、北上川ノ品井廣淵ノ諸沼、及此國ノ各潟ノ如キ、皆其趣ヲ同クス、蓋河流變遷ノ餘勢、遂ニ其流跡ヲ近地ノ低凹ニ存セル者、福島潟ハ、越湖ト云フ、周圍五里、國中第一ノ大湖ナリ、鑑潟ハ、菱湖ト云フ、其太是ニ半ス、下流東ニ赴キ、再田潟大潟ノ兩沼ヲナス、共ニ里餘ノ周圍ニ過キズ、其他彌彦山ノ麓ヲ遠ル小湖ハ、皆西川ニ入ル、圓土寺揚枝及左潟早潟是ナリ、而テ鳥屋野潟ハ、信

濃川ノ東岸ニ接シ、栗水川ノ水源ナリ、  
 荒川ハ、東西兩川アリ、東ナル者ハ、羽前ヨリ来リ、飯豊以  
 東、兩岳ノ峽間ヲ下リ、其山中ノ溪流ヲ集メテ西流シ、女  
 川、切手川ヲ并セ、十九里ニシテ、桃崎港ニ注ク、其東北ニ  
 三面川アリ、以東岳ヨリ出デ、十餘里ニシテ、村上ニ至リ、  
 高根、長津ノ諸水ヲ、其城市ノ北ニ集メテ、瀬波港ニ入ル、  
 河口以東ヲ、海府ノ地トナス、○西ノ荒川ハ、即名位瀧ヨ  
 リ出ヅリ者ニシテ、信濃ノ境ニ沿ヒ、關川ニ至リ、同國野  
 尻沼ノ下流ヲ受ケ、折レテ、北ニ下ル、故ニ關川ノ稱アリ、  
 其流十餘里、頸城郡ノ中央ヲ流レ、片貝川、兵代川、富川、佐

内川等、左右ヨリ注キ入リ、水勢頗大ナリ、高田ヲ過キ、今  
 町ニ至リテ、海ニ入ル、其濱ヲ直江津ト云フ、  
 上越後ハ、頸城一郡ノ稱ニシテ、南ハ、信濃ノ北端ヲ受ケ、  
 地幅甚狹シ、關川ヲ界トシテ、川中島ニ接ス、西ハ、燒山、妙  
 高ノ重山ニ圍メレ、山下通僅ニ越中ニ達ス、海濱即直江  
 津ニシテ、今町港常ニ舟舶輻湊ノ地ナリ、東北ハ、米山直  
 ニ海岸ニ峙テ、登降三里、山腹皆水田ヲ開ク、故ニ此名アリ、  
 崖下ハ、岩岬壁立シ、鉢崎、鯨波ノ間、海濤頗奔激ナリ、其  
 後山ニ帶ノ山脉ヲ連ネ、鍋立山トナリテ、菱岳ニ連ル、是  
 ヲ上中兩區ノ經界トナス、○高田ハ、一都會ニシテ、兩隣



國ノ要衝ヲ受ケ、東西ニ出ヅル便地タリ、城市ハ西ニ春日山ノ城趾アリ、上杉氏本姓ハ長尾爲景、謙信、景勝ノ三世、此國ヲ領スル九十年、其盛時ハ、近隣數國ヲ服從シテ、武威ヲ北國ニ振ヘリ、趾即其居城ナリシガ、封ヲ會津ニ替フルニ及ビ、遂ニ墮チテ高田ニ築クト云フ、

中越後ハ、出雲崎、柏崎、寺泊ノ三港アリ、出雲崎最大港ナリ、其佐渡ニ航行スル者、必、此地ヨリス、○黒姫山ハ、鍋立山ヨリ分レテ、東北ニ亘リ、八石、外形ノ諸山ニ連リ、小木山ニ至リテ盡ク、仍テ地勢ヲ東西ニ分ツ、西地ハ、漸平坦ニシテ、數川、相集リ、柏崎ノ東ニ注ク、惡田川ト云フ、東地

ハ、信濃川ノ左右ニ亘リ、與板長岡ノ兩城市、共ニ河岸ニ臨ム、與板ハ、上杉老臣直江兼續ノ舊城タリ、長岡ハ、三國通ノ官道ニ當リ、國界ニ至ル、陸路二十五里、海口ニ達スル、水程十六里、亦一都會ノ要地タリ、

蒲原ハ、國ノ一半ニ亘ル大郡ニシテ、東北ノ岩船郡ヲ并セテ、下越後ト呼ブ、其東南境ハ、重山ノ間ニ別郷アリ、即津川、近方ノ地、常ニ岩代ニ屬シテ、會津ヲ領スル者、數氏、皆是ヲ兼有シテ、北海、運輸ノ要地トセリ、其諏訪、菅名、兩山ノ脈ヲ離ルレバ、地勢平坦ニシテ、海濱ニ至ルト餘里、復岡阜ナシ、泥澤、昇濕ノ地、多カリシガ、開墾其功ヲ積ミ

平田遠ク連ルニ至ルト云フ。○海岸ハ、東北ヲ海府ニ  
限リ、西ハ、彌彦山ヲ以テ、中下ノ區界ヲ建ツ、彌彦ハ、多寶  
香語ノ雙峯並立シ、角田山其東ニ接シ、兩山共ニ高峻ナ  
ラザレド、海岸ニ峙立スルヲ以テ、舟行ノ目標トナリ、  
岸下ヲ濱浦ト呼ビ、沿崖五里、岩洞石窟、相峙チ、巨礁海上  
ニ突起シ、其危險勝景、共ニ海府親不知ニ次ク、是ヨリ東  
北ノ海岸ハ、彎曲シテ、瀨波港ニ至ル二十里、平坦ナル沙  
濱ニテ、海底ニ暗洲一帯相亘リ、信濃阿賀ノ兩大河、及荒  
川ノ海口、僅ニ其斷絶ノ處アルノミ、舟人、是ヲ一瀨、二瀨  
ニ瀨ト呼ビテ、航泊、共ニ相戒ハル處トナス。

新潟ハ、五港ノ一、明治二年、互市場ヲ建テ、北海ノ開港  
地トナス、街市繁盛ニシテ、漕運、各方ニ通シ、四近ノ物貨、  
常ニ集リ、北國第一ノ大港ナリ、然レ、河港ニシテ、碇泊ニ  
堪ヘズ、故ニ大船又シク留滯スルヲ得ズ、日和山、市後  
ニ峙チ、燈臺ヲ設ケテ、入津ノ標準トナス、河口ヲ隔テハ、  
沼、垂ト相望ム、昔時、一郡ノ地ナリシガ、今僅ニ其邑名ヲ  
存スルノミ、新川、其傍ヲ流レテ、松崎ニ通ズ、水程二里、其  
阿賀川ヲ下ル者、悉此川ニ轉漕シテ、港内ニ送致スト云  
フ。○下越後ハ、大邑頗多ク、山ニ傍ヒテ、村松、五泉アリ、河  
岸ニ、三條、燕アリ、平野ニ、新發田、水原アリ、而テ、三條、新

北條國  
發田、最繁盛ナリ、新發田ハ、即開墾地ノ稱ニシテ、一川其源ヲ、加治川ノ上流ニ分チ、城市ノ南ヲ過ギ、平野ヲ環流シテ、西ニ赴キ、福島潟ト、共ニ松崎ニ注ク、新發田川ト云フ、三條ハ、五十嵐川ノ河口ニシテ、信濃川ニ臨ミタル一都會ナリ、長岡ト相距ル六里、亦河運、便利ノ處トス、抑此國ハ、北海ニ向ヒ、氣候寒冽ニシテ、積雪早ク降り、遅ク消ユ、故ニ雪國ノ稱アリ、且火脈、地中ニ亘リ、火井、溫泉、甚多シ、火井ハ、地火ノ上昇スル者、管ニ引キ、以テ煮焚ノ用ニ供ス、魚沼、頸城、三島ノ三郡、各一處アリ、其蒲原郡ノ柄目、木村、最舊シ、俗ニ圍爐裏火ト呼フ、而テ草生津並槻

ノ諸村、共ニ此井アリ、如法寺村最盛ナリト云フ、溫泉ハ、岩船ノ湯澤、荒川ノ岸ニ沸キ、魚沼ノ湯澤、上田川ノ上流ニ出ツ、椽尾、股大湯等モ、亦魚沼ニ屬ス、飯豊山麓ニ瀧谷アリ、妙高ノ山間ハ、關赤倉、蓮華ノ諸泉トトス、中央ハ、田上村杉ニシテ、海岸ハ、彌彦山下ニ、稻島岩室ノ兩湯アリ、而テ、草生津如法寺並槻等、復溫泉ヲ出スト云フ、

佐渡ハ、雜太、羽茂、加茂ノ三郡ナリ、

北海上ノ一大島ニシテ、上世ハ、雜太、一郡ノ國タルヲ以テ、直ニ佐渡島ト呼バリ、養老五年、始テ三郡ニ分チシト云フ、承久ノ役、北條義時、順德上皇ヲ、此島ニ徙ス、二十三

年ニシテ崩ス、即真野山陵ニ奉葬ス、其後、元亨ノ變義時  
裔孫高時、又中納言藤原資朝ヲ、此地ニ謫シ、後九年、守護  
本間山城ヲシテ、殺害セシムト、是ヨリ、南北朝、及足利氏  
ノ戰世ニ當リ、中土ノ人、カヲ此絶島ニ及ス能ハズ、故ニ  
本間氏、遂ニ世領トセシガ、後同姓十二族ニ分テ、澀谷土  
屋ノ諸氏ト、二十二地頭ト稱シ、各邑ニ據リテ、三郡ノ地  
ヲ分領ス、天正十六年、上杉景勝、來リ攻メ、明年悉其地頭  
ヲ廢シテ、越後ノ屬領トセリ、而テ、金礦ノ起ハ、文祿年間  
ニアリ、鶴子山ヲ始坑トナス、青盤清次ノ諸礦、慶安中  
リ、盛ニ其業ヲ開ク、現場ニ十二坑ニシテ、廢山十三處アリ

リ、銀銅、其中ニ産シ、鐵沙金沙、又各處ニ在リト云フ、

島ノ沿田五十三里、兩山脈、其前後ニ列リテ、互ニ大岬ヲ  
南北ニ出ス、東西岸ハ、共ニ海水、灣入シテ、各、大灣ヲナス、  
島ノ周岸、港泊ノ處多ケレド、亦岬角斷崖、極テ多シ、海中  
ハ、岩礁數百斷續相亘リテ、其舟行ヲ妨碍セサル者、僅ニ  
十餘箇ニ過キズ、故ニ本地ニ熟スル者ニアラザレバ、航  
路大率、其患害ヲ免ル、歟ハズト云フ、

金北山ハ、中央ノ高岳ニシテ、山脈ヲ左右ニ列ヌ、二岳横  
枕新穂ノ蜀峯、其前ニ聳エ、北ニ亘リ、檀特金剛ノ兩山ニ  
連リテ、其端ヲ北出ノ大岬トナス、巨岩絶壁ニシテ、兩角



高ク峙ツ、大野龜、彈崎ト云フ、岬ノ前後モ、亦海府ト呼ヒ、其西北ニ向ヒタル海岸ハ、關田浦、石花ノ諸濱相連リ、其西端ヲ、姫津港トナス、總稱シテ外海府ト云フ、共ニ金北山ノ北陰ニ當リ、山間ノ溪水相集リ、石花川トナル、○岬ヨリ東南ノ海灣ハ、鷺崎港其北端ニアリ、黒姫浦川ノ諸浦相亘ル、是ヲ内海府ト云ヒテ東灣ノ北岸ヲ限レリ、島ノ南岸、越後ト相向フ處、前濱ノ稱アリ、其左右ヲ東濱西浦トナス、經塚夕暮、頭角間、米山ノ連峯相並ビテ、濱浦ノ上ニ亘リ、其南端ニ、鶴峯アリ、其岬ヲ澤崎ト云フ、即南出ノ大岬ナリ、其岸邊ヲ三崎ト呼ヒテ、前濱西浦ノ中

間ヲ限ル、○東濱ハ、米山ノ脈、海岸ニ至リ、瀨木崎出テ、水津港ヲ擁ス、是ヲ其北端トナシ、南隅ハ、松崎多田ノ兩港相並ビリ、小木赤泊ハ、共ニ前濱ノ港灣ニシテ、小木最良港タリ、城山海岸ニ峙テ、内外ノ兩泊ヲナス、越後ノ出雲崎ハ、海程十八里、出入共ニ此地ニ依ラザルナシ、故ニ島中ノ大港タリ、羽茂川ハ、經塚山ニ出テ、六里ニシテ、外泊ノ東ニ注ク、國府川ト共ニ此島ノ大川タリ、南北兩連山ノ間ハ、地勢開ケテ東西兩灣ノ涯ニ亘リ、平坦ナルヲ五里、夷湊潟ハ加茂湖ト云フ、周回五里餘、五月雨山其北ニ聳エ、湖口ハ、夷湊ノ兩邑相夾ミテ亦舟泊ノ

處是ヲ東灣ノ正中トナス、○西灣ノ中央ヲ真野入江ト云フ、國府石田真野ノ三川、其内ニ注ク、雪高濱越長濱等ノ勝地アリ、國府川ハ源ヲ新穗山一發シ、西南ニ流レ、平野ノ衆水ヲ集メ、五里ニシテ、四日市ニ至リ、海ニ入ル、街市ハ新町ニ連リ、其後山ヲ、山陵トナス、八幡ハ、石田川ノ河口ニシテ、上皇行宮ノ趾猶存ス、河原田其西岸ニアリ、本間氏ノ本宗佐渡守高統始テ其居城ヲ、茲ニ構ヘシトゾ、○二見ノ岬ハ、金北山ノ南脈ヲ承ケテ、其端ハ、斷崖高ク峙ツ、是ヲ臺鼻ト呼人即西灣ノ西端ナリ、岬陰ヲ二見トナシ、岬外ヲ橘浦ト云フ、共ニ舟泊ノ地ナリ、

相川ハ、島中ノ一都會ニシテ、姫津橘浦ノ中間ニナリ、相距ル各二里、後背ノ礦山トナス、塗笠山、其北ノ擁シ、春日崎出テ、海灣ヲ抱ク、濁川、西流シテ、街市ノ間ヲ繞リ、灣内ニ入ル、灣口正西ニ開キテ、直ニ日本海ニ向ヒタリ、物産

全道河海ノ産、大率相同シ、若狹ノ鯛、鰯、能登ノ鰺、鯨、越後ノ鮭、鱒等、最良産ナリ、冰見鰯モ、亦越中ノ佳品ニシテ、其海上ハ、巨大ナル蛸魚アリテ、時々小舟ヲ覆ス、然ル漁人其脚ヲ切斷シ来リテ、亦食料トナヒリ、佐渡能登ハ、海藻甚多ク、天草、礫草、海苔、海布ノ類ヲ産ス、其諸國ノ山谷ハ、

共ニ獸皮材木ヲ出ス、白山ノ熊膽、其價最貴シ、其養蠶モ、  
亦峽間ノ村里ヲ多シトナスト云フ、製造ノ品ハ、越前ノ  
蚊帳、加賀ノ簀笠ヲ始トシ、漆器ハ、若狹塗輪烏塗アリ、高  
岡魚津モ、亦其精良ナル者ヲ製ス、銅器ハ、高岡ノ島周（島周）金  
澤ノ象嵌、其巧妙ヲ極メタリ、金澤ハ、黒梅漆錦手燒アリ、  
然レ、陶器ハ、山代村ノ製スル處ナリ、九谷燒ト呼ビ、其品美  
ニシテ、且精細ナリ、織物ハ、越前ノ奉書紬、越中ノ吳呂丸  
越後ノ石泉平等ニシテ、小松絹、小千谷縮ハ、國名ヲ呼ビ  
テ、加賀絹、越後縮ト云フ、縮ハ、其業甚盛ナリ、古越後布ト  
云ヒ、其名最聞ユ、魚沼一郡ノ産ニシテ、其婦女ガ積雪中

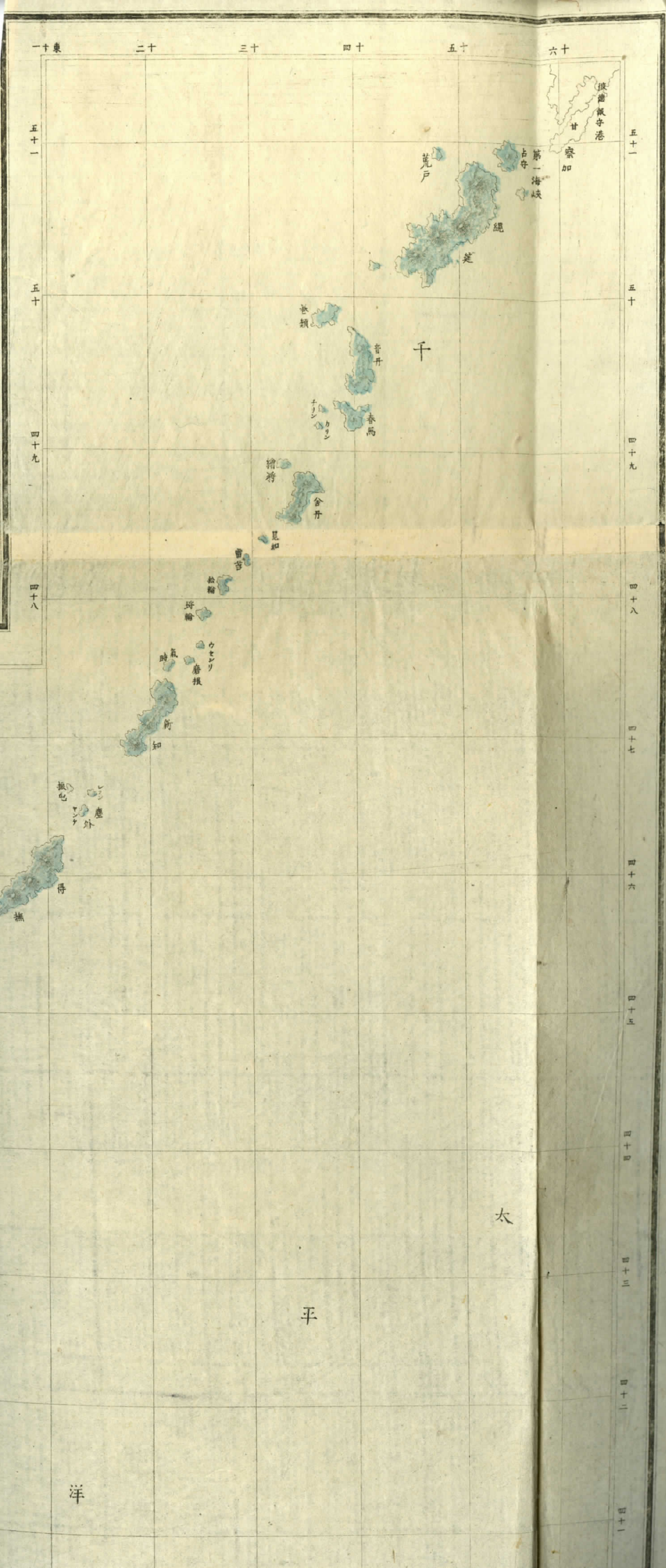
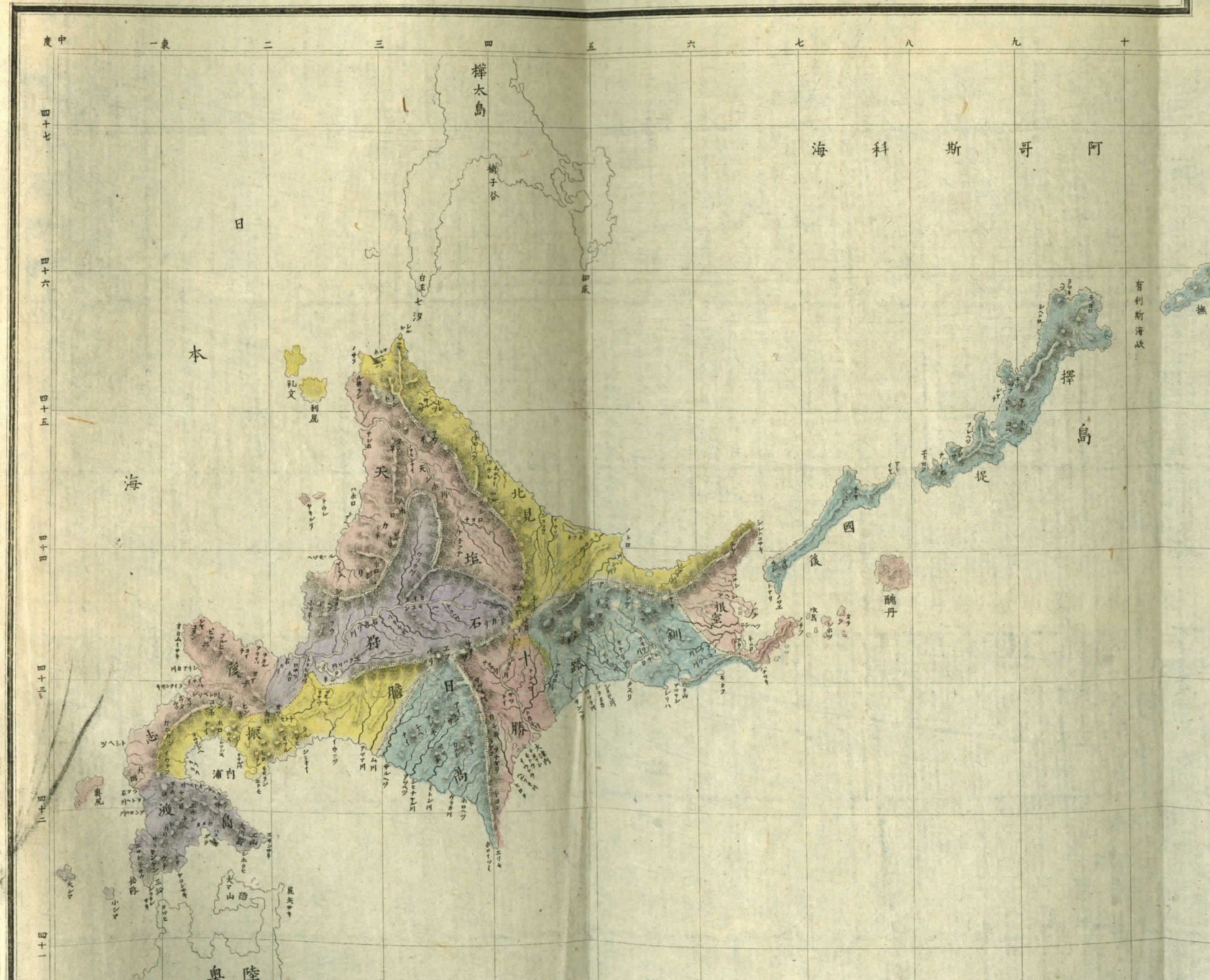
ノ業タリ、白紺縞、總等、各村ノ專色アリ、是ヲ四方ニ鬻グ  
者、一歳ニ數十萬段、而テ、富山ノ賣藥ハ、行商ノ更ニ盛ナ  
ル者ニシテ、畿内ハ道到ラザル處ナシ、萬金丹、透氣丹等、  
數十品アリ、亦産物中ノ一種ト稱ス可シ、紙ハ、越前奉書  
其品十八種、共ニ精滑ニシテ、他國其比ナシ、越中ノ八寸  
鳥子、加賀ノ中折杉原モ、亦紙中ノ良品タリ、飲食諸物ハ、  
七尾潤ヲ第一トス、福井ノ雲丹、又新味ナリ、菓子ハ、金澤  
ノ落雁、今石動ノ薄冰、長岡ノ越雪、及高田沼津ノ飴等ニ  
シテ、食鹽ハ、島地、宮崎濱浦ノ諸濱、是ヲ産業トス、與板ニ  
鹽井アリテ、陸鹽ヲ出ス、抑礦物各種ノ北國ニ出ツル

ハ其来ル最舊シ、天智帝ノ時ニ越國ヨリ、燃土、燃水ヲ獻  
スト、今ノ泥炭、石腦油ニテ、其産共ニ越後ノ蒲原郡ニ屬  
ス、油ハ俗ニ臭水ト呼ブ、是礦物中ノ一類ニシテ、其若狹  
ノ雲母、越前ノ砥石、加賀ノ切石、能登ノ石炭、越中ノ硝石  
等、其多産スル者ナリ、水晶、瑪瑙ノ寶石モ、亦其間ニ出ヅ、  
金、銀、銅、鐵ノ諸礦ハ、越後悉備ル、又、石炭坑アリ、惟下品ニ  
屬セルノミ、而テ越中ニ銀ナク、越前ニ金ナシ、加賀ハ金、  
銅兩礦ニシテ、若狹ハ、僅ニ銅山アリ、其佐渡ノ金、銀ハ、開  
坑以來、終三百歳ヲ超ユ、故ニ既ニ佐渡ノ土ト呼ヘバ、則、  
直ニ貨幣ノ通稱トナルニ至レリ、

# 北海道全圖



北極道全圖





阿哥斯海科

日本

太平洋

奧陸

度中

一

二

三

四

五

六

七

八

九

十

十一

十二

十三

十四

十五

十六

十七

十八

十九

二十

二十一

二十二

二十三

二十四

二十五

二十六

二十七

二十八

二十九

三十

三十一

三十二

三十三

三十四

三十五

三十六

三十七

三十八

三十九

四十

四十一

四十二

四十三

四十四

四十五

四十六

四十七

四十八

四十九

五十

五十一

五十二

五十三

五十四

五十五

五十六

五十七

五十八

五十九

六十



北海道

北海道ハ、正北ノ一大島ト、二十餘箇ノ連島トヲ并セテ  
新ニ建置セシ一道ニテ、大島ヲ分割シテ、渡島後志石狩  
天鹽北見膽振日高十勝釧路根室ノ十國トナシ、其連島  
ヲ千島國ト云フ、總テ十一國ナリ、蓋其大島ハ、即尾ヲ振  
ノ赤鯉ニシテ、宗谷襟裳ノ兩岬、南北ニ突出シテ、中腹ノ  
兩角ヲナス、以西ハ、地勢次第ニ逼リ、左右ヨリ相合ヒテ、  
其尾南ニ向フ、後志膽振ノ兩國、尾ノ前後ニ亘リ、其端兩  
岐スル處ハ、渡島ニシテ、中土ノ陸奥ト海峡ヲ夾ム、而テ  
東北隅ハ、口齕ノ地ニ當リ、納沙布知常兩岬相開キテ、根

室ノ大灣ヲナス、大小ノ連島一行ニ並列シテ、北ヨリ来  
リ、連聯相追ヒテ、其灣内ニ接スル者ヲ千島トス此其全  
道ノ大勢ナリ、島中ハ、山岳相重リテ大率皆噴火山ナリ、  
阿寒増字岳別ノ諸山、東方ニ並ビ峙チテ、直ニ千島連峯  
ノ脈ヲ承ク、十勝夕張石狩天鹽ノ諸大岳共ニ中央ニ立  
チテ、山脈ヲ四方ニ起ス、其西ニ亘リテ、後方羊蹄山トナ  
リ、遂ニ南ニ赴ク者ヲ、中背ニ連ル大山脈トス、中土ノ脊  
梁ナル連岳ノ由リテ起ル處ナリ、其中央ヨリ、正南ニ直  
行スル者ハ、襟裳崎ニ至リテ絶エ、北ニ迂回スル者ハ、宗  
谷岬トナル、又別ニ支脈ヲ、東北ニ令テ、其端ハ知常崎

ニ盡ク、此連山ハ、即地勢ヲ東西ニ區分スル者ニシテ、日  
高ト勝釧路ノ三國ハ、太平洋ニ向フ、故ニ膽振ヲ并セテ、  
東北ト稱ス、其海岸百七十六里、總テ遼淺ニシテ、舟泊ニ  
便ナラズ、尚室蘭厚岸ノ兩良港アリ、石狩天鹽ハ、共ニ日  
本海ニ臨ミ、後志ニ亘リテ、西地ト呼ブ、沿岸百三十二里、  
大率斷崖岬角トレテ、舟泊ノ灣、海漁ノ場、其間ニ多ク列  
リタリ、北見ハ、全ク阿哥斯科海ヲ受ケ、悉荒磯ニシテ、常  
ニ北風ノ衝突ニ當リ、百里ノ海濱、舟舶ノ繫ク可キナシ、  
○抑、此島ハ、元蝦夷島ト云ヒテ、土夷ノ巢窟タリ、上世ハ、  
中土ノ東北ニ居ル者ト、別チテ、渡島蝦夷ト呼ブ、阿倍比

羅夫ノ来リテ、政所郡領ヲ置キシハ、此島ニ事アルノ始ナリ、其後百五十年ヲ歴テ、田村麻呂征夷十餘年、悉内地ノ上夷ヲ驅リテ、此島ニ逐ヒ退ケ、永ク叛亂ノ患ヲ除キ、津輕ノ海峡ヲ以テ、中土ノ經界ヲ定メシヨリ、六十年ヲ過ギテ、藤原保則出羽ノ亂ヲ討定セシ時、此島ノ蝦夷モ、亦内屬スト云フ、然レ海水ヲ隔テシ絶島ナレバ、尚是ヲ夷地ニ附シテ、政化ヲ施スニ及ハズ、故ニ此後事ハ、惟源義經アルノミ、相距ル三百年、復一事ノ知ル可キナシ、義經ノ高館ヲ逃ル・ヤ、海ヲ渡リテ、東西ノ夷地ヲ經歷シ、土人ニ教フルニ、弓矢耒耜ノ用ヲ以テシテ、漁獵播殖ノ

法ヲ授ケシトバ、各地ノ夷人、今尚判官殿ト奉稱シテ、中興ノ神人トナス、然レ文字ヲ傳ヘガルヲ以テ、曆日記籍ヲ知ラズ、惟自一種ノ方言アリ、其人種ハ、大島ニ居ル者ヲ、愛乃ト云ヒ、千島ヲ良曾輪ト呼ブ、樺太ハ正北ノ大島ニシテ、肉令壽女連小六子ノ三種ヲ交フ、其男子ハ、髮ヲ被リ、女子ハ、額或口傍ニ黥シ、共ニ獸皮樹皮ヲ衣服トナシ、諸肉ヲ常食トナス、○嘉吉中、陸奥人、安藤盛季ト國ノ戰敗レテ、此島ニ来リ、漸土夷ヲ撫從ハト、是中土ノ人ハ、此島ヲ領セシ始タリ、其子、康季、再陸奥ノ舊土ヲ復セントシテ、敗死ス、其屬黨蠣崎某、尚留リテ、其境領ニ據ル、實

徳中ニ至リ、若狹人武田信廣来リ攻メテ是ヲ降シ、其女ヲ納レテ妻トナシ、仍テ蠟崎氏ヲ稱ス、征討其力ヲ盡シテ、數年ノ間、土夷ノ屬從スル者頗多シ、遂ニ居城ヲ松前ニ築キテ、悉全島ヲ領セリ、然レ土地曠漠ニシテ、氣候寒冽ナリ、故ニ終歲積雪消エズ、殊ニ冬時ハ、山路皆埋リ、海水悉凍ル、行路舟運共ニ通ズル能ハズ、故ニ其地區ノ分境モ、口蝦夷與蝦夷西蝦夷等ノ稱ヲ存シ、地名モ、總テ夷語ニ依レリ、其東洋ニ就キテ、襟裳崎ヲ經界トナシ、以西ヲ口蝦夷トシ、以東ヲ與蝦夷トス、并セテ東海岸氏呼バ、西北兩地ヲ共ニ西蝦夷ニ屬スレバ、宗谷岬ヲ中央トシ

テ、西海岸北海岸ト分稱ス、而テ、樺太全島ヲ北蝦夷ト云ヒ、千島ヲ注府加ト呼ブ、共ニ部落酋長アリテ、常ニ山獵海漁ヲ業トシ、其肉皮角骨等ヲ以テ、中土ノ物産ニ替ヘ、僅ニ其生計ヲ營ム、全島出ス所ノ產物、諸動物ノ外ハ、昆布ヲ多數トナス、松前氏世々其利ノ專シテ、獨富盛ヲ致セリ、寛永中、澀茶利ニ金礦ヲ發見スルヲ以テ、盛ニ坑夫ヲ集メテ、採掘ノ事ヲ起シ、時、土夷ノ克惡ナル者、其衆ヲ誘ヒテ、一時騷擾ノ事アリ、既ニシテ、魯西亞人、其隣境ヲ接スルニ因リ、常ニ其地方ニ往來シ、英吉利人モ、亦東洋ニ意アルヲ以テ、其舟舶、屢各島ノ間ヲ廻航ス、徳川氏

兩國ノ意人遂ニ量リ難キヲ知リ、寛政十一年、全島ヲ收メテ、官地トナシ、稍守禦撫育ノ方法ヲ定メタリシガ、文化三年ニ至リ、魯人果シテ来リ、樺太及千島ニ寇シテ、又宗谷ヲ侵掠ス、年ヲ超エテ、事纔ニ治ル、爾來五十年、其兩國ト通信ヲ結ブニ及ビ、箱館ニ互市場ヲ開キ、奥羽ノ諸大藩ニ、土地ヲ分テ與ヘテ、守備開墾ノ事務ヲ掌ラシム、王政一新ノ後、全島ヲ建テ、一道十一國トナス、實ニ明治二年ナリ、此時千島ハ、僅ニ兩島ニシテ、樺太ハ、魯西亞ト兩屬ノ地タリ、其年七月、開拓使ヲ置キ、尋テ海關ノ設屯田ノ舉アリ、八年、更ニ魯西亞ト、土地交換ノ議ヲ決シ

樺太ヲ以テ、全ク彼ニ附シ、千島ヲシテ、悉我ニ屬セシム、茲ニ於テ、全道ノ經界、始テ定ル、大島ハ、東西百六十里、南北百二十里、其周圍五百七十三里、千島ハ、二十島、尚ハ箇ノ屬島アリテ、三百里ノ間ニ並ビ連レリ、人員ノ總計、十七萬五千ニシテ、土人ハ、十分ノ一二充タズ、而テ渡島ニ國、其十萬三千口ヲ有テリ、土地ノ曠漠、人民ノ稀少ナルヲ知ル可シ、然レ、開拓ノ法、現今着手ノ最中ニ屬シ、札幌ニ本廳ヲ建テ、箱館根室ニ支廳ヲ置キテ、四大部ヲ分管スレバ、後來其土地人民、富盛繁殖、又想見ス可キナリ、渡島ハ、七郡、津輕、福島、上磯、龜田、茅部、檜山、爾志ト云フ、

渡島ハ、全島ノ古總稱ナリ新ニ國郡ヲ建ツルニ及ビ、全道ノ南端ヲ其定名トナセリ、其封境ハ、松前氏ノ時ニ當リテ、既ニ陸奥ニ附屬シタル者トス、東南西ノ三面、其ニ海ニ臨ミ、北ハ、茅部ヲ膽振ノ界トシ、熊石ヲ以テ、後志ニ接ス、大山脈ノ其兩國ノ間ヲ亘リ來ル者、中央ヨリ左右ニ分レ、兩端、其ニ岬角ヲナス、東南ヲ、惠山崎ト云ヒ、西南ヲ、白神崎ト云フ、兩岬相距ル三十五里、其海岸、一帯、陸奥ト相對ス、白神ハ、龍飛崎ト海峡ヲ夾ム、謂ユル三沙ノ險ナリ、惠山ハ、噴火山ノ岸上ニ峙ツ者ニシテ、其岬ハ、尻矢崎ト相向ヒテ、山脈ヲ恐山ニ連ヌ、汐首崎其西南ニ出テ

、大間崎ト、兩角相望ム五里、其西灣ヲ、箱館港トナス、矢來内木占内ノ諸濱ハ、灣西ヨリ相列リテ、其端、又ニ岬ヲ峙ツ、矢越崎ト云フ、白神崎ト相並ブ者ニシテ、其間ニ、福島吉岡ノ諸邑、相臨メリ、是ヲ南海岸ノ大勢トナス、其西向ノ海岸ハ、三十里、南端ヲ松前城トナシ、中央ヲ、江刺港トナス、北隅ハ、即熊石ナリ、丸山岬高ク相峙チテ、國界ヲ限ル、海上ニ大島小島相並ビ、岸ヲ距ル四五里、其周回ハ、二里、三里ニシテ、島峯共ニ噴火山ナリ、惠山ヨリ北ノ海濱ハ、六箇場所ト唱ヘ、土人ノ住地ナリシガ、寛政中ヨリ、内地ニ屬セシメシトゾ、長津部ヨリ野



田老ニ至ル二十餘里、茅部登其中央ニ聳エテ、騰振ノ江  
巴崎ト相對ス、峽間七里、其内ヲ内浦ト云フ、兩國ニ亘リ  
タル入海ニシテ、其沿田三十里、茅部登モ、亦噴火山ナリ  
駒岳ト呼ビ、又内浦岳、砂原岳等ノ別稱アリ、岳ノ南腹ニ  
大沼、小沼相並ベリ、其間ニ就キテ坂路アリ、茅部峠ト云  
フ、即箱館ヨリ、東地ニ達スル官道ニシテ、其間十一里、新  
三太路ヲ築キテ、車馬ヲ通ズ、森村ヲ渡海ノ津港トス、砂  
原、鷺木、落部ノ諸村相並ビテ、其内海ノ濱ニ臨メリ、  
箱館ハ、五港ノ一、安政五年、横濱、長崎ト共ニ外國互市ノ  
場トリス、卧牛山、高ク海中ニ聳ユテ、三峯相並ブ、御殿立

待藥師ト云フ、其南面ハ、悉斷崖ニシテ、北麓ハ、一條ノ地  
峽相亘リテ、龜田ニ接シ、仍テ海港ヲ擁ス、沿田七里、灣内  
水深クシテ、四時風濤ノ憂ナク、出入共ニ其便ヲ得タリ、  
故ニ舟泊ノ安穩ニシテ、且運輸ノ利アルハ、海内無雙ノ  
好港ト稱ス、街市ハ、山麓及地峽ノ上ニ連リ、人口二萬八  
千、全道中ノ大都會タリ、支廳海關ヲ置キテ、南方一大部  
ヲ管ス、龜田ニ五稜郭アリ、其火ノ後、僅ニ其形ヲ存スル  
ノミ、其近地ハ、頗平坦ニシテ、桔梗野ト重濱等相連リ、四  
方五里計、有川、其西ヲ南流シテ、灣内ニ注ク、○松前モ、亦  
一都會ノ地、人口一萬六千餘ニシテ、舟泊ノ處タリ、其城

ヲ福山ト云フ、即松前氏ノ居城ニシテ、其舊地ヲ上國ト云フ、亦同海岸ノ北ニアリテ、江差ト相接ス、武田信廣ノ始テ此島ニ来リシ時ニ、城砦ヲ茲ニ構ヘシトゾ、江差ハ、鷗島港前ニ横リテ、其灣内稍碇泊ノ利アリ、人家三千、特ニ海關ヲ置ク、古ヨリ箱館、松前ト三大港ノ稱アリ、山岳ハ、中央ニ重ル者ヲ雄鉾見日烏帽子黒龍ノ諸岳トナス、分レテ西ニ赴ク連山ハ、笹山鍋岳尖岳等ニシテ、更ニ兩脈トナリ、千軒岳地藏岳直行シテ、其端ハ白神崎ニ盡ク、知内岳、其一脈ヲ承ケテ、東南ニ亘レリ、岳腹ハ箱館松前兩地ノ官道ニ當リ、頗峻シキ坂路ニシテ、亦知内峠

ト云フ、岳ノ南端、高ク海岸ニ峙ツ者ハ、即矢越トリ、濁川岳茅部峠大川岳河汲峠等ハ、一帯並列セル連岳ニシテ、東南ニ走リテ、恵山ニ接ス、一國ノ川流ハ、皆此重山ノ間ニ發源スル者ニシテ、安奴流川最大ナリ、流レテ江差ノ北ニ注ク、其北ニ、乙部川アリ、落部川其源ヲ同シクシテ、内浦ニ入ル、南海岸ニ注ク者ハ、知内川漸大ナリ、其他茂別當別等、大率皆細流ナルノミ、

後志ハ、奥尻久遠、太櫓瀬棚島牧壽都歌棄磯谷岩内古宇積丹、美園、古平、余市、忍路、高島、小樽ノ十七郡ナリ、阿部比羅夫ハ、此島ニ来リシヤ、土夷ヲ撫從シテ、政所ヲ

建テシト、此國其舊地ナレド、今趾蹟ヲ存セズ、後方羊蹄  
山高ク東北境ニ聳エ、其形ニ因リテ蝦夷富士ト云フ、又  
待根尻ト呼ブ、雌岳ノ夷稱ニシテ、雄岳ハ、高峻却テ其半  
ニ及バズ、品根尻ト云フ、全道ノ山脈ヲ合セテ、中土ノ連  
山ヲ起ス原岳ニシテ、其峻秀ナルヲ、全島中ノ第一タリ、  
昆保登蟹寒登等ハ、雌岳ノ脈ヲ承ケテ、南ニ亘リ、太櫓勇  
拉ノ諸岳相連リテ、膽振ト向背ヲナス、其山間ニ、黒松内  
山道ヲ開キテ、兩國ノ通路トス、是ヲ歌棄越ト云フ、○與  
市忍路古平、美國ノ諸山ハ、雄岳ヨリ連リ来リテ、西北ニ  
赴キ、積丹岳ニ至リテ斷ツ、其岬ヲ、御神崎ト云フ、西地第

一ノ險岬ニシテ、仍テ、一國ノ形勢ヲ兩分ス、積丹以下ノ  
七郡ハ、共ニ北ニ向フ、其沿岸ハ、石狩ニ亘リ、相抱キテ、海  
灣ヲナス、其他、九郡ハ、悉西向ノ海岸ニシテ、奥尻ハ、海中  
ノ一島タリ、其兩地ノ通路ハ、惠直峠トテ、忍路、古平、兩山  
ノ峽ヲ穿チテ、山道ヲ開キ、北岸ノ余市ニ達スルヲ以テ、  
余市越ト云フ、近世迄ハ、舟行ニテ、御神ノ岬角ヲ廻航セ  
シニ依リテ、甚其便利ヲ缺キシトゾ、  
後志川ハ、北海五大河ノ一ナリ、源ヲ雄岳ノ奥ニ發シテ、  
重山ノ間ヲ西ニ下リ、河中岩石相峙チテ、兩岸悉絶壁ナ  
レバ、舟筏ヲ通ズル能ハズ、故ニ數十里ノ長流ナルモ、其

水程ヲ測ルニ由ナシト云フ、海口ヲ磯谷トナス、雷電辨  
慶ノ兩岬、左右ヨリ出デ、海灣ヲ擁ス、壽都最良港ニシ  
テ、歌棄ト相對シテ、灣ノ中央ニ在リ、壽都川、東流シテ、港  
内ニ入ル、○雷電モ、此地ノ險處ナリ、其岸上ハ、險峻ナル  
山谷ナレバ、古ヨリ舟行ニテ、其往来ヲ通ゼシガ、近時、坂  
路ヲ築キ、雷電岬ト云ヒテ、西地ノ官道トナス、  
奥尻島ハ、周回十四里、其東北ノ港泊ヲ、山瀬泊ト云フ、久  
遠ノ大田崎ト、海峡ヲ夾ム四里ニシテ近シ、○大田ハ、火  
串崎ト云フ、大田山其上ニ峙チ、天狗山ト相並ビテ、其海  
岸ハ、渡島ノ界ニ接ス、太櫓臼別ノ諸川ハ、膽振ノ界ナル

山谷ヨリ出デ、直ニ海ニ入ル、總テ此國ノ水流ハ、地幅  
ノ狭キヲ以テ、其流共ニ短小ナリ、故ニ後志川ノ外ハ、利  
別尻深ノ兩川稍大ナルノミ、利別ハ、蟹寒岳ニ出テ、南  
流シ、轉ジテ西ニ下ル、其海口ヲ、瀬棚トナス、尻深川ハ、源  
ヲ與市岳ヨリ出シ、西流シテ、千勢根尻ノ麓ヲ遶リ、其溪  
水ヲ集メテ、岩内港ニ注ク、港上ニ石炭礦アリ、海濱ト相  
距ル一里計、鐵路ヲ築キテ、車運ニ便ニス、故ニ港内頗繁  
盛ナリ、且、余市越ノ要口ニ當リ、峻坂十三里ナルモ、官道  
ノ往来、皆、此岬ニ依レリ、○港ヨリ西北ハ、沿岸悉斷崖巨  
岩ニシテ、御神崎ニ達スル十四里、更ニ北ニ向ヒテ、赤岩

崎ニ至ル二十二里、亦嶮岸荒磯、相列リテ、美國古平余市、忍路ノ諸邑、其間ニ臨ム、共ニ魚獵ノ場ナリ、

小樽ハ、國中第一ノ都會ニシテ、石狩ノ界ニ接シ、小樽内ヲ兩國ノ界川トナス、西ハ、赤岩崎出デ、海灣深ク入り、舟泊ノ利、最其便ヲ得タリ、此地、西地中央ノ要港ニシテ、且札幌ノ運輸ヲ管スル大港ナリ、故ニ海關ヲ建ツ、街市ハ、手宮ト相接シテ、人口三千餘、東北ハ、村里相連ル三里ニシテ、鐵道ニ至ル、是ヨリ札幌及石狩川ノ海口ニ至ル、共ニ六里ナリト云フ、

石狩ハ九郡ニシテ、札幌、石狩、厚田、濱益、樺戸、雨龍、空知、

夕張、上川ト云フ、

石狩川ハ、全道無二ノ川流ニシテ、水邦第一ノ大河ナリ、長流百里、西ノ父川ト呼ビ、北海五河ノ最大ナル者トス、源ヲ石狩十勝兩岳ノ間ニ發シ、北ニ下リテ、兩段ノ大瀑布トナル、高各二百丈、下流尚深谷ノ際ヲ流レ、西ニ繞リテ、平野ノ中央ニ出ヅ、此野ハ、即上川郡ノ地ナリ、四方十餘里、悉荒漠タル高原ニシテ、惟雜樹茂草ノミ、僅ニ土人ノ住スル處トナル、部別、竹別、愛別、及江丹別ノ諸川、其間ヲ環流シテ、悉本川ニ會流ス、神古丹ニ至リ、衆山、左右ヨリ合ヒテ、水流一道トナル、峽間ハ、岩石並立シテ、水勢駿

敷ナリ、上川ノ通路ハ、山道ノ行ク可キナレ、故ニ其往来、  
共ニ河舟ニ依ル、然レ、此峽間ハ、必、舟ヲ陸運シテ、更ニ上  
流ニ泛バ、遡ルト云フ、川流ノ峽間ヲ離ル、ヤ、雨龍川、北  
ヨリ来リ、漸下リテ、空知川、南ヨリ注ク、此兩川ハ、支源中  
ノ第一、第二ニシテ、其河岸ニ就キテ、各一郡ヲ建ツ、以下  
注合スル者十一流、水川、益其大ヲ致シ、平野ノ間ヲ横流  
シテ、河幅四百間、海口ヲ石狩ト云フ、此川ノ水流ハ、上面  
甚遅緩ナレ、水底頗急駿ナリ、其既ニ海中ニ入ルヤ、餘  
勢高數里ニ及ビテ、其水常ニ鹹淡ヲ分テリ、鮭魚ノ魚獵、  
最盛ニシテ、秋時ハ、舟舶必、河口ニ輻湊セリ、

夕張川ハ、支源中ノ第三タリ、亦河邊ニ沿ヒテ、一郡ノ地  
ヲ定ム、夕張岳ニ發源シテ、西ニ流ル、岳陰ハ、十勝日高、膽  
振ノ三國ニ接シテ、國ノ正南隅ニ時ツ、川流ハ、山谷ノ間  
ヲ離レテ、釐根丹根ノ兩沼トナリ、又良雲沼トナル、其周  
回七里、各沼ノ周岸ハ、共ニ蘆荻ノ繁茂セルノミ、再流レ  
テ川トナリ、膽振ヨリ来ル千歳川ト合ヒテ、北ニ赴キ、江  
別ト呼ビテ、本川ニ入ル、豐平川ハ、札鯤岳ニ出ヅ、其山モ、  
亦國ノ西南隅ニ聳ユル者ニシテ、其脈直ニ後方羊蹄山  
ニ接シ、水流ハ、札鯤ヲ過ギ、一派ヲ街市ノ間ニ分チテ、舟  
運ニ便ニス、新川ト呼ビ、下流ハ、札鯤川ト云フ、其本流ハ、

津石狩ニ至リテ、水川ニ入ル、是ヲ第四ノ支源トナス、其  
他ノ支源ハ、美倍、鯉牟爲ノ兩川、各夕張岳ノ北陰ヨリ来  
リ、初寒、東別等ハ、其合流スル處、既ニ海口ニ接シタリ、○  
海口ヨリ北ハ、阿曾岩、小金山等ノ連山、一帯相並ビテ、天  
鹽ノ諸千別岳ニ接ス、其脈海岸ニ出デ、兩國ノ界ヲ限  
ル者モ、亦御神崎ト云フ西地、第二ノ險ニシテ、舊時ノ通  
路ハ、亦舟行ニ依リシガ、直ニ山道ヲ開キテ、遠布伊越ト  
云フ、嶮路六里、又人家ナシ、然レ、其官道タルヲ以テ、近來、  
大ニ修路ノ功アリシトゾ、其海岸ハ、石狩ニ至ル十八里、  
厚田濱、益毛、古木、蘇ノ諸濱、相連レ、又、舟泊ノ地ナシ、

札幌ハ、開拓使ノ本廳ナリ、明治五年、定メテ全道ノ大都  
府トナシ、中央ノ一大部ヲ所管ス、抑、此國ハ、地勢平遠ニ  
シテ、石狩川ノ兩岸ニ亘リ、南北二十里、東西三十里、悉廣  
平ノ沃野タリ、街市ハ、河岸ヲ距ル、最近キ處四里、更ニ篠  
路ヲ歷テ、海口ニ至ル十二里、而テ、千歳川ヲ溯リテ、東海  
岸ノ勇拂ニ達スルモ、亦十八里、故ニ東西、兩地ノ中央ニ  
當リ、新ニ官道ヲ開キ、電信ヲ通ジ、學校、病院等ノ建置、實  
ニ儼然タル一大都會ナリ、箱館ノ道程ハ、膽振通七十一  
里、後志通八、三里ヲ加フ、其人口ハ、寄留ヲ并セテ、常ニ五  
千ニ下ラズトゾ、參似ノ一村ハ、屯田兵ノ住地ニシテ、其



四周ノ廣野ハ大ニ開墾ノ業ニ就ケリト云フ、  
天鹽ハ増毛留萌昔前天鹽中川上川ノ六郡ナリ、  
天鹽川ハ石狩川ニ對シテ西ノ母川ト云フ、亦五大河ノ  
一ナリ、然レ河ノ地ハ悉數澤ニシテ、分流數派、共ニ舟  
泊ノ地ニ堪、ズ、其流八九十里、水勢遲緩ニシテ、河幅僅  
ニ百五十間、天鹽石狩兩岳ノ際ヲ其源泉トナス、名宜劍  
淵ノ兩川、注合シテ、其勢漸大ナリ、此地方ハ上川郡ニ屬  
シ、北ニ流レテ、番毛變毛ノ兩澤ヲ并セ、逢志内ト合流ノ  
處ヲ中川郡トナス、各四方十里ノ高原ニシテ、土人ノ居  
住ヒルノミ、川流ハ薰音風音ノ山峽ニ夾マレテ、西ニ下

リ、再平野ノ間ニ出デ、北ヨリ來ル沙里別ト合ヒ、其餘  
勢尚海口ノ外ニ至リテ、一湖ヲナス、是ヲ猿淵ト云フ、  
北境ハ、一帶ノ連山、其脈ヲ天鹽岳ヨリ起シ、數嶽風音江  
谷箱屯斗ノ諸山、並ビ列リテ、北見ノ界ヲ限ル、其中央ニ  
亘ル連山ハ、諸干別岳、正南ニ立チテ、石狩ノ小金山ニ連  
リ、纒尻、汁取、炊稻、羽纒ノ諸山、相並ビテ、同國ノ兩龍郡ト  
向背ヲナス、其山間ニ山道ヲ開キテ、兩國ノ通路トナス  
者ヲ、能武者越ト云フ、此連山ヨリ出ヅル水流ハ、留萌遠  
減古丹羽纒ノ諸川アレド、共ニ地幅ノ狭少ナルヲ以テ、  
其流路モ亦自短シ、其海岸ハ、御神崎ヨリ、天鹽ノ河口ニ

至ル四十里計、南隅ニ増毛港アリ、又纒泊ト云フ、小樽ニ  
次グ良灣ニシテ、常ニ舟泊ノ地タリ、中央ヲ苫前トナス、  
羽纒崎其北ニ出デ、海上五里ニ、天賣燒尻ノ兩島相並ベ  
リ、周回各二里餘、凡、西海岸ノ島嶼ハ、後志ノ奥尻ヨリ、北  
見ノ利尻ニ至ル、海程一百餘里、僅ニ此兩小島アルノミ、  
北見ハ、利尻禮文宗谷枝幸紋別常呂網走斜里ノ八郡  
宗谷ハ、全道ノ北端ニシテ、其岬ヲ志留志崎ト云フ、樺太  
島ノ白主崎ト相對シテ、海峽ヲ夾ム、其間十里、七條ノ潮  
路アリテ、常ニ東ニ流ル、故ニ宗谷ノ七汐ト云フ、魯人ハ、  
是ヲ亞呂華海峽ト呼ブ、峽ヨリ東ハ、阿哥斯科海ニシテ、

以西ヲ日本海トナス、樺太ノ兩屬タリシヤ、支廳ヲ其島  
ノ楠子谷ニ置キテ、常ニ渡舟ヲ通ゼリ、其海程十八里、然  
ル、冬春ノ間ハ、冰海トナルヲ以テ、其航路ヲ斷チシト云  
フ、抑、此港ハ、北境ノ要津ニシテ、札纒ハ八十五里、其灣内  
水淺クシテ、大船ヲ繫ク能ハズ、灣口、西ニ向ヒ、納沙布崎  
ト相對シテ、南岸又海灣ヲ抱ク、湍潮浦宇緣内等相臨シ、  
越間川ハ、朱雲沼ヨリ出デ、其灣内ニ注ガリ、

千登蟹牛岳ハ、正南ノ中央ニ聳エテ、石狩天鹽十勝三岳  
ノ陰ニ立チ、境界相接ス、南境ノ山脈、皆此岳ヨリ起リテ、  
東西兩地ノ經界ヲ限レリ、風音屯斗ノ連山、西北ニ走リ

テ、其海岸ノ官道ヲ、類蘭越ト云フ、其端北ニ出デ、納沙  
布崎トナル、利尻禮文ノ兩大島、其海上ニ峙チテ、各一郡  
ノ地タリ、共ニ周回十六里計、利尻ハ、島峯高ク聳エテ、其  
形富士山ニ似タリ、故ニ北見富士ト呼ブ、南岸ノ三泊ハ、  
舟泊ノ地ニシテ、陸地ト相距ル七里、禮文尻ハ、西北ニ里  
ヲ隔ツ、島中平坦ニシテ、北ニ向ヒテ、王子港アリ、  
一國ノ海岸殆百里、或ハ岩岬高ク峙テ、或ハ荒沙遠ク亘  
ル、潮沼甚多ク、西北ニ、猿別利別等アリ、中央ノ遠淵沼、最  
大ナリ、周回十餘里、海水ト僅ニ一條ノ沙路ヲ隔ツルノ  
ミ、風體緯内、纔別落薩ノ諸川各流レテ、直ニ海ニ入ル、諸

骨勇別ノ兩川漸大ナリ、共ニ千登蟹牛ニ發源セル者ニ  
シテ、其東北更ニ常呂網走沙里ノ三大河アリ、皆河岸ニ  
就キテ、一郡ノ地トナス、常呂川ハ、十勝岳ヨリ来リ、北  
ニ流ル、海口ノ東ニ、野捕崎突出シテ、網走ノ湖口ト、地勢  
ヲ限ル、網走川ノ上流ハ、釧路ニ屬シテ、其源ヲ、阿寒岳ノ  
陰ニ出ス、下流ハ、海濱ニ至リテ、湖水トナル、沙里川ハ、沙  
里岳ヨリ發源シテ、其河口、纔ニ舟泊ノ用ニ堪ヘタリ、  
斜里岳ハ、阿寒、麻周諸岳ノ山脈ヲ承ケテ、別ニ連山ヲ起  
シ、宗奈別、湯輪尾、茶々登ノ高峯、並ビ列リテ、其端ヲ知床  
崎トナス、巨岩屹立シテ、海潮ノ衝激ニ當リ、古ヨリ此岬

角ヲ廻航セシ者甚稀少ナリト云フ、即全道ノ東北端ニシテ、宗谷岬ト相向ヒテ、阿哥斯科海ヲ受ケ、北洋茫渺ナルモ、眼下ニ一見ス可シ、國名ノ由リテ起ル處ナリ、

膽振ハ、山越、蛇田有、珠室蘭、纒別、白老、勇拂、千歳ノ八郡、此國モ、亦比羅夫カ郡領ヲ置キシ舊地ニシテ、地勢東西ニ分レ、江巴岬ヲ、其中央トナス、西南ノ地ハ、後志ト山脈ヲ限リテ、内浦ヲ環ル、故ニ其地幅頗狹長ナリ、東北ハ、大洋ニ向ヒ、島真夫越ヲ以テ、石狩ニ接ス、其間山岳ナク、大率廣平ナル原野ナリ、○後方羊蹄山品根待根ノ兩峯、高ク聳エテ、正北ニ立チ、東ニ札纒岳アリ、南ニ昆保岳アリ、

其ニ國境ヲ圍メリ、昆保ノ脈、別レテ内浦ノ岸ニ峙ツ者ヲ、纒内岳トナス、賤川岬ノ山道アリテ、行路ヲ、其岸上ニ通ズ、岸下ヲ、禮文華ト云フ、斷岩巨礁、常ニ海潮ノ衝ニ當レリ、○白老岳阿曾岩ノ諸山ハ、札纒岳ヨリ連リテ、奴振別登室蘭岳ニ接シ、其端遠ニ海中ニ出ツル者ヲ、江巴岬トナス、○白岳樽舞登ノ兩火山ハ、其ニ海岸ニ峙ツ、白岳ハ、内海ニ臨ミテ、岳陰ニ大湖アリ、亦白沼ト云フ、周回十三里、湖中ノ四島、繁茂尻頗大ナリ、湖水東ニ流レテ、牡猿別ニ注リ、樽前岳ハ、外洋ニ向ヒ、福志登ト相並ビテ、其後脊亦醜津沼アリ、江庭登市屋登等、其北ヲ圍ミテ、兩山ノ

北言異聞 卷之三  
峽一夾マル、モ、尚東西四里、南北五里ニ亘リテ、其沿回  
十五里ニ及ブ、今千歲湖ト云フ、下流東北ニ出デ、瀑布  
トナリ、急湍トナリ、七里ニシテ千歲ヲ過ギ、又、炭津、真負  
ノ兩沼トナル、周岸各三里計、此地方ハ、總テ舊稱ヲ死骨  
ト唱ヘシガ、文化中、其稱呼ヲ改メシト云フ、兩沼ノ水、西  
北ニ流レテ、札鯤岳ヨリ來ル、伊去、武伊去ノ兩川ヲ并セ、  
遂ニ石狩ニ入ル、千歲川是ナリ、凡、國中ノ水、皆流レテ、東  
洋ニ入ル、惟此一川、北ニ下リテ、西海岸ニ注ケリ、  
川流ノ東洋ニ入ル者ハ、東隅ノ六皮、吾妻ノ兩川ハ、夕張  
岳ヨリ出デ、最長流ナリ、其他ハ、勇排、白老、鯤別及敷宇

蛇體等ニシテ、其海濱ハ、平坦相亘リ、六皮ノ河口ヨリ、江  
巴ノ岬ニ至ル二十餘里、樽舞岳ノ麓ハ、大率燒野ニテ、其  
海底モ、亦一帯ノ遠淺ナリ、其内浦ニ落ツル諸川ハ、牡猿  
別、頗大ナリ、後志ノ界ヨリ出ツル者ハ、長萬別、勇拉川等  
アリ、内浦ハ、渡島ト相抱ク内海ニシテ、國境ヨリ、禮文華  
ニ至ル十二里、山越内、勇拉夫、白利加、長萬部ノ濱浦、彎曲  
シテ、平沙遠ク亘リタリ、長萬別ニ遡リテ、西海岸ニ至ル  
山道アリ、歌材、風栗木等ヲ過ギテ、黒松内ニ達ス、即歌桑  
越是ナリ、禮文華以東ハ、海岸相峙ナテ、振内、蛇田ノ諸邑  
其上ニ列リ、六里ニシテ、有珠港ニ至ル、其地、白岳ノ麓ニ

北言耳聞 卷之三  
アリテ、海灣深ク入り、港内、廣カラザルモ、亦自舟泊ノ利  
アリ、然ル、室蘭港ノ大ニシテ、且便ナルニ若カズ、  
室蘭ハ、東海岸第一ノ良港ナリ、江巴崎出デ、其前面ヲ  
遮リ、大黒島、夷島、岬端ニ並ビテ、巧ニ灣口ヲ擁ス、其口、西  
ニ向ヒ、沿灣六里、白鳥澗ト呼ブ、澗内、水深クシテ、四時、結  
氷ヒズ、且、海底、悉平沙ニシテ、大船、巨艦モ、亦岩礁、衝突ノ  
患ナシト云フ、凡、東地ノ官道ハ、渡島ヨリ、直ニ内浦ヲ渡  
リ、海程、十一里ニシテ、此港ニ入り、更ニ勇排ニ至ル、二十  
里、是ヲ札幌ノ行路トナス、即、膽振通、是ナリ、港市ハ、灣ノ  
東岸ニ新建シ者ニシテ、海關ノ設アリ、其舊地ハ、灣ノ

西端ニ臨ミ、相距ル二里、呼ビテ、元室蘭ト云ヘリ、  
日高ハ七郡、沙流、新冠、静内、三石、浦河、様似、幌泉ト云フ、  
在昔武内宿禰ノ、東北ノ蝦夷ヲ巡覽セシヤ、日高見國、廣  
土ノ壤ノ語アリ、其地ハ、今ノ常陸近方ヲ指シ、者ナレ  
ト、此國ノ命名、實ニ其意ニ取レルハ、地勢ノ克其語ニ適  
合セルニ由レリ、正面ニ大洋ヲ受ケ、全道ニ於テ、氣候特  
ニ溫暖ナリ、且、土人種族ノ、始地ニシテ、沙流郡最古時ノ  
風俗ヲ存ス、義經ノ此島ニ来リシヤ、沙流川ノ西岸ナル  
平取ニ城壘ヲ構ヘシトゾ、今尚廟社ヲ奉祀シテ、義經明  
神ト云フ、其後澀茶利ノ亂ニ、土人其力ヲ盡シテ、兇徒ヲ



平ケシヲ以テ、當時既ニ御身方蝦夷ノ稱アリト云フ、  
此國ノ川流ハ、大小三十條、其源ノ遠キ者ハ、悉東北ヲ圍  
ム連岳ニ發シテ、西南ニ下リ、支流ノ注合、流路ノ環曲ナ  
キニアラザレド、大率皆直行シテ、各海ニ入ル、其大ナル  
者七川、沙流厚別、美朴、澀茶利、三石浦河、鯤別ト云フ、其海  
口ハ、一帯ノ海濱、膽振ノ界ヨリ、東南ニ亘ル三十五里、其  
南端ヲ、襟裳崎トナス、皆平遠ニシテ、港泊ノ地ニ乏シ、三  
石浦河様似、鯤泉ノ四港、僅ニ舟泊ノ用ニ堪ヘタリ、様似  
ノ等持院ハ、有珠ノ善光寺、厚岸ノ國泰寺ト、享和中建立  
ヒシ佛宇ノリト云フ、

國中ノ山、甚險峻ナラズ、且金銀諸礦アリ、様毛登ハ、横山  
ノ夷稱ニシテ、安寧登ハ、尖山ノ義ナリ、其他千重内、年輕  
神登ノ諸山アリ、國境ハ、高山重峯、相列リテ、北隅ヲク張  
岳トナス、連山是ヨリ起リ、東境ヲ限リテ、正南ニ走ル者  
ハ、十勝ト山脈ヲ分ケテ、一帯ニ並列セリ、薩内愛度鴨居  
蠟虎阿茶利、青居豐仁ノ諸山、高峻相連ル三十里、更ニ岬  
角トナリテ、大洋中ニ突出セルヲ三里、其左右ハ、共ニ巨  
岩絶壁ニシテ、其端高ク峙ツ者ヲ、襟裳崎トナス、即夷地  
ノ口、奥兩部ヲ分ケシ處ニテ、西南ハ渡島ノ惠山崎、及陸  
奥ノ尻矢崎ニ對シ、相距ル、各四十里計、岬ノ前面ハ、岩礁



屹立シテ、大ニ舟行ノ障礙ヲナス、然ル、昔時ハ、此端ヲ廻航シテ、僅ニ彼此ノ通路トナシ、ガ、其不便ナルニ因リ、纒泉ヨリ、直ニ山間ヲ横絶シ、坂路ヲ豊仁岳ノ中腹ニ穿テ、東岸ノ鑿田奴月ニ達スル八里、當弗峙又沼見峙ト云フ、山道極メテ峻急ナリト雖、奥地ノ往来、皆是ニ依リテ、永ク岬端ノ危険ヲ過グルヲ免ルト云フ、

十勝モ亦七郡、廣尾當緣、十勝上川、中川、河東河西トス、大洋ヲ東南ニ受ケ、沿海皆淺沙平磯ニシテ、岸上ニ當緣、堀茅勇當千代郎ノ諸沼、相列リ、僅ニ海濱一條ノ洲路、其各沼ノ岸ヲ限リ、故ニ海岸二十里、復舟舩ヲ繫ク可

キナシ、惟西隅ノ廣尾、僅ニ小舟ヲ納ル、ニ足レリ、十勝川ハ、兩海口、相並ビテ、河水迸リ流ル、其狀恰兩乳ノ白汁ヲ出スガ如シ、十勝ハ、即乳房ノ土言ナリ、本流ノ幅七十間、支流ハ六十間、遠發内ト云フ、其長流五十餘里、東地第一ノ大河ニシテ、久摩川ニ對シテ、東ノ父川ト呼ブ、五大河ノ其一ナリ、其源ヲ十勝岳トナス、國內ノ水、四方ヨリ注合スル者、十支川アリ、其大ナル者、竿呂志川、薩内、猿淵、浦加等ニシテ、其支流中ノ第一ト呼ブ者ヲ、利別ト云フ、釧路ヨリ來ル、鯊、鯊別、足寄川ト合ヒテ、其勢頗大ナリ、凡本支兩流ノ岸ハ、平野相列リテ、土人ノ住居スル者、

千餘口、故ニ上川以下ノ四郡ヲ置キテ、是ヲ分屬セシム。  
○國內ノ川流、其本川ニ注ガザル者ハ、惟蠟虎減船ノ兩  
川ノミ、減船ハ、日高ノ界ニ、峙チタル鴨居尻ニ發源シ、當  
縁ノ西ニ至リテ海ニ入ル、其流頗急駿ニシテ、大雨ノ後  
ハ、河水漲リ溢レ、其幅六百間、往々行路ヲ止ム、蠟虎川ハ、  
又其西ヲ流レ、河口ハ、直ニ廣尾港ニ接シタリ、

十勝岳ハ全道ノ中央ナル高山ニシテ、東ハ釧路ノ鰲蕘  
別岳ニ連リ、西南ハ、山岳相重リ、竿呂岳トナリテ、夕張岳  
ニ接ス、連山遂ニ正南ニ亘リテ、襟裳崎ニ盡ク、北勢風俗、  
此山脈ニ依リテ、各異ナルアルハ、實ニ天然ノ經界ナリ、

釧路モ、白糠足寄釧路阿寒網走川上、厚岸ノ七郡ナリ、  
阿寒登ハ、兩岳高ク聳エテ、正北ニ雙立ス、待根尻品根尻  
ノ稱アリ、故ニ雄阿寒雌阿寒ト呼ブ、噴火山ニシテ、雄峯  
常ニ硫烟ヲ吐ケリ、兩峯ノ際ニ、一大湖ヲ湛フ、周回二十  
里、南岸ニ溫泉火坑アリ、其水東ニ決シテ、大瀑布懸レリ、  
高三百丈、下流阿寒川トナリテ、重山ノ峽ヲ貫キ下ル、南  
流四十里、秋別古輕ノ諸川ヲ并セテ、久摩川ト合フ、  
久摩川モ、亦其源ヲ、久摩湖ト云フ、其流三十五里、上流ノ  
地ハ、深谷ノ間ニアシキ、湖邊ヨリ河岸ニ亘リテ、土人ノ  
住居アリ、故ニ川上郡ヲ置ケリ、山圍ノ解クルニ及ビテ、

地形廣平ナレド、東岸ハ、連山相並ビテ、其間ニ兩沼アリ、  
白龍沼、周回七里、當路沼ハ、是ニ倍ス、沼口直ニ木川ニ接  
ス、河流ハ、漸西南ニ轉ジテ、瀬塵川ヲ并セ、一里ニシテ、阿  
寒川ト合流ノ處ニ至ル、共ニ流ル、又一里、遂ニ釧路港  
ニ入ル、河幅五十間、即、五大河ノ一ニシテ、東ノ母川ト呼  
バリ、河口ハ、舟泊ノ地ナレド、沿岸悉荒磯ニシテ、海中モ、  
亦岩礁多ク列リタリ、其中ニ、築垣ノ如ク、二行ニ並列シ  
テ、還ニ洋中ニ亘ル者アリ、潮退ケハ、恰橋柱ノ狀ヲナス、  
真ニ天造ノ奇觀ナリ、河口ヨリ西南ノ海濱ハ、竹別ヲ十  
勝ノ界川トス、相距ル十二里、尺別思別共ニ其東ニ注グ、

諸呂々、和津手ノ兩川ハ、白糠港ヲ夾ミテ、各海ニ入ル、而  
テ釧路以東モ、亦十二里ニシテ、知葉崎ニ達セリ、  
厚岸モ、亦東地ノ良港ニシテ、海關ヲ置ケリ、灣内東西二  
里、南北三里、西岸ヲ、仙法趾ト云フ、其端ハ、即、知葉崎ナリ、  
東端ナル盤螺山ト相對シテ、灣口正南ニ開キタリ、大黒  
島山麓ニ接シテ、入港ノ標目トナル、港市ハ、灣ノ東岸ニ  
テ、奴草紙ト相連リ、其東北ノ一沼ハ、周回數里、亦厚岸沼  
ト呼ブ、沼中ニ蠣島アリ、全島悉牡蠣ノ積ミ、疊リタル者  
ニシテ、土人常ニ採リテ、食料トナス、丹高野手戸ノ兩岬、  
相向ヒテ、沼口ヲ夾ミ、亦灣ノ岸ニ臨メリ、○盤螺山ヨリ、

東北ノ沿岸ハ根室ノ界ニ至ル十五里、悉斷崖ニシテ、中  
央ニ幾達府島アリ、周回三里、其灣小舟ヲ繫ク可シ、

久摩岳ハ又浦惠牛ト云フ、兩阿寒、鰲、薰別ノ兩岳、其西ニ  
連リ、東ハ摩周、西別ノ二山ト相並ビテ、東北兩海岸ノ經  
界ヲナス、岳ノ南腹ニ周回二十里ニ及ブ、大湖ナリ、即久  
摩湖是ナリ、湖面ノ當茂尻ハ沿田一里、其中央ニ峙テリ、  
南岸ニ接シテ、又一島アリ、親子津ト云フ、四周絶壁相峙  
テ、島上ニ火坑高ク燃エテ、闇夜モ尚白晝ノ如シ、○神湖  
ハ摩周、西別兩岳ノ北陰ニアリ、周崖甚高クシテ、更ニ湖  
口トシ、蓋伏流トナリテ、根室ノ西別川ノ源ヲナスト云

フ、同國ノ標津川モ亦此重山ノ際ニ發源セル者ナリ、○  
北見ノ網走川及十勝ニ入ル足寄川ハ、其源皆鰲、薰別岳  
ノ前後ヨリ出デタリ、上流ノ土人共ニ此國ニ屬スルヲ  
以テ、特ニ網走足寄ノ兩郡ヲ建テ、其地ヲ分管セリ、

根室ハ五郡ニシテ、花咲根室、野付、標津、茅梨ト云フ、

根室ノ本稱ハ仁牟伊ニテ、樹木アル海灣ヲ呼ブ、其港西  
北ニ向ヒ、兩岸對峙シテ、灣口ヲ擁ス、辨天島、其中間ニ立  
テ、島左ニ岩礁相並ベ、島右ハ水深クシテ、大艦巨船モ  
亦障碍アルヲナシ、島上ニ燈竿ヲ建テ、港口ノ標トナ  
ス、港内ノ沿田一里ニ充タザレ、氏支廳ヲ置キテ、東北ノ

大部ヲ管スルニ因リ、四方ノ人民、相集リテ、小都會ヲ  
ナス、且千島ニ渡ル要津ニシテ、國後島ト、海程十八里ヲ  
隔テタリ、○港ヨリ東岸七里ヲ、納沙布崎トナス、即全道  
ノ東端ナル大岬ニシテ、其南岸ハ、悉大洋ニ向ヒ、險崖相  
列リテ、釧路ノ界ニ至ル十里中央ニ花咲港アリ、根室ト  
直路ヲ通スル二里海上ハ、大小ノ島嶼相並ビ其大島ヲ  
由瑠瑠ト云フ、周四二里雙嶼對立セル者ヲ友尻ト云フ、  
而テ大岬ノ前面モ、亦群島並列セル處ニテ、水晶島二里  
ノ海峽ヲ夾ミテ、其正東ニ立チ、周四八里、凡南洋ヲ廻航  
シテ、千島及根室ニ來ル者ハ、皆此峽間ヲ出入ス、故ニ岬

端ニ燈標ヲ設ケテ、舟行ノ方位ヲ示セリ、○秋露勇涼志  
發多樂春刈ノ諸島ハ、水晶島ノ東南ニ連リ、周四各四里  
ヨリ、十里ニ及ブ、其最大ニシテ、且遠キ者ヲ醜丹島ト云  
フ、納沙布崎ヲ距ル十五里、根室ヨリ三十里、其周四三十  
四里、大小二十四灣、其ニ舟泊ノ利アリ、且夏場冬場等ノ  
漁場ハ、土人ノ渡海シテ、海獵ヲナス者殊ニ多シ、昔時ハ、  
住民アリシガ、航路ノ不便ナルニ依リ、悉花咲地方ニ移  
リシヨリ、永ク無人ノ絶島トナレリ、  
根室ヨリ、西北ノ海濱ハ、西別ノ河口迄十里、平沙遠ノ巨  
リタレ氏、大率卑濕ニシテ、沼澤相列リタリ、風蓮沼頗大



ナリ、當太當拜ノ兩口アリテ、海水相通ズ、風蓮別ハ、釧路ヨリ來リ、殘減安寧ノ兩水ヲ并セテ、沼内ニ注ケリ、河岸ニ沿ヒテ、同國ノ厚岸ニ達スル十五里、其地勢平遠ナレ氏、總テ荒土藪澤ニシテ、僅ニ一條ノ行路アルノミ、西別ハ、國中第一ノ大河ニシテ、其源ヲ縫沼ト云フ、釧路ノ西別岳、西境ニ峙ツ、即其岳腹ノ小湖是ナリ、水流ハ、重山ノ際ヲ降り、鼈海ニ至リテ、海ニ入ル、是ヨリ北ノ濱浦モ、亦平坦七里、床、電、俊別ノ兩河口ヲ歷テ、越間別ニ至ル、芽梨七河ノ其一タリ、海口ノ北ヨリ、一條ノ地峽出デ、海中ニ亘ル五里、其幅百間計、峽端漸廣平ナリ、更ニ彎曲

シテ、大沼ヲ抱キ、其西南ニ向フ處ヲ、野付港ト云フ、沼口ニ、夜雲肝、林新處ノ三小嶼アリ、其外岬ハ、國後島ト相對シテ、五里ノ海峽ヲ夾ム、故ニ千島ノ航海ハ、多ク此地ヨリス、○標津芽梨ノ兩郡ハ、北見ト國界ヲ今チ、斜里、千藝根忌、期、様毛、羅牛、硫黃、祖父、纒内ノ諸岳、相並ヒテ、最端ヲ初登ト云フ、其岬ハ、即北見ノ知床崎ナリ、連岳ノ際ヨリ來ル水流ハ、各流レテ、海ニ入ル者七川、標津川最大ナリ、其他ハ、有緣、董根中類等、總稱シテ、芽梨七河ト呼ベリ、千島ハ、國後、擇捉、振別、紗那、藥取、得撫、新知、古守ノ八郡、千島ハ、東北極界ニ並列セル連島ノ總稱ニシテ、土人ハ、

注府加ト呼フ、又久留武勢ノ舊稱アリ、故ニ洋人其語ヲ轉シテ、吉利兒連島ト云フ、本島二十、其屬島八箇、相連リテ、太平洋ト、阿哥斯科海ノ間ヲ限リテ、是ガ經界ノ門垣ヲナセリ、然レ土人ノ住居スル者、五島ニ過ギズ、其島ニ就キテ、八郡ヲ建ツ、其第一、第二ノ兩大島ハ、古ヨリ我封境ニシテ、其他ハ、總テ新屬ニル者トス、

第一島ヲ、國後島トナス、周回百六十里、島ノ半身ハ、根室ノ大灣中ニ夾リ、野杖岬出デ、野付岬ト相對ス、吉利港、其渡口ナリ、東北端ヲ、跡彌ト云フ、擇捉島ト七里ノ海峽ヲ隔テタリ、茶々登、辰丑登ノ高山相峙チ、茶々最高シ、凡

此連島ハ、悉火山ノ脈ニ當リ、島峯多クハ、硫烟ノ吐ケリ、擇捉島ヲ、第二島トナス、周回二百八十里、全國中ニ於テ、南海ノ四國島ニ次ク大島ナリ、梓登、壁粒程越刺牛茂寄ノ諸岳、島ノ背脊ニ亘リ、東南岸ハ、險岸絶壁ナレル、西北ハ、振別、紗那、葉取ノ港灣アリ、即、擇捉以下ノ四郡ヲ置ケリ、東北岸頭ニ、樂奇別ノ大瀑布アリ、直ニ海中ニ落チテ、近岸ハ、波浪動揺シテ、舟楫ヲ近ツクル能ハスト云フ、第三ヲ、得撫島トス、一名ヲ、獵虎島ト云フ、擇捉島ト、有里斯海峽ヲ夾ム、峽間十五里、此島以北ハ、魯西亞ノ舊領ナリシガ、樺太ト交換シテ、悉我ニ屬セル者ナリ、各島ノ際



皆海峽ヲナシテ、海流共ニ急駿ナリ、其奔潮ノ順逆、殆定勢ナク、且海霧深ク籠メテ、舟行ノ最戒心ス可キ處タリ、塵外ハ、南北ニ分レ、并セテ第四島トナス、南島ヲ燒氣ト呼ブ、即近キ島ノ義ニシテ、北島ヲ禮文ト云フハ、沖島ノ意ナリ、而テ第五島ヲ振屯ト云フ、三島共ニ小嶼タリ、第六島ヲ新知ト云フ、本島及得撫島ハ、并セテ八十口ノ土人アリ、魯領タリシ時ニ、阿墨利加洲ノ最北ナル連島ノ、阿令哲人種ヲ、今チ移セリ、云フ、此島ハ南ニ向ヒテ良灣アリ、最碇泊ニ堪ヘタリ、第七島ハ、氣時磨根失知ノ三小島ニシテ、失知ハ、牛尻ニ呼ビテ、磨根ノ屬島タリ、

埒輪ハ、第九島ニ當リ、即各島土人ノ、良曾和ト呼ブ者實ニ此島ヲ、其種族ノ始地トナス、然ル、悉最北ノ占守島ニ移リシヨリ、今一人ノ住民アルナシ、松輪雷苔見知ノ三島、其北ニ並列シテ、第十、十一、十二ノ位置ヲ占メタリ、第十三島ヲ、舍丹トシ、十四ヲ繪狩トシ、十五ヲ春馬トシ、十六ヲ音丹トシ、十七ヲ卷類トス、其他、加隣、知隣ノ屬島アリ、各島ハ、海獵ノ最盛ナル處ニシテ、舍丹ハ、夏場、夷稱、音丹ハ、譯シテ大場ト云フ、故ニ此兩島ハ、占守ヨリ來リテ、漁業ヲ營ム者、現今七十餘口ノ住民アリト云フ、纔筵ハ、即大島ノ義ニシテ、連島中ノ最大ナル者ナリ、其

周回ハ測定スル能ハザレバ、國後島ト、相比ス可シ、是ヲ  
第十八島トシ、其北岸ニ接スル荒戸島ヲ、十九島トナス、  
占守ハ、方言猶至極ノ島嶼ト云フガ如シ、最尾ノ二十島  
ニ位シテ、魯領ノ甘察加ト、數里ノ海峡ヲ夾ム、兩岸ノ樹  
木互ニ相辨知ス可シ、魯人ハ此連島ヲ算スルニ、北ヲ以  
テ其始トセシニ依リテ、第一海峡ノ稱アリ、而テ各島ニ  
居リシ良曾和人、皆此島ニ集リテ、今尚二百餘口ヲ存セ  
リ、蓋甘察加ニ彼得報守港ヲ開キシヨリ、土人其近地ノ  
便ナルヲ以テ、此最極ノ一島ニ移住セシト云フ、  
物産

全道ノ物産、其品極テ多キモ、皆山海自然ノ生産ニシテ、  
人造ノ者、蓋少シ、遠表樹ノ皮ヲ紡績シテ、厚志ト唱フル  
衣布ヲ織リ、諸血草ノ葉ヲ編ミテ、天器ト呼ハ、夾袋ヲ製  
シ、又器皿ニ花紋ヲ彫刻スル等、僅ニ土人ノ手作ニ係レ  
リ、南方溫暖ノ地ハ、麥黍菜蔬ヲ植ウレバ、稻田ハ松前近  
地ノ、樹木ハ、檜檜最巨大ニシテ、樺落葉松モ、亦良材ナ  
リ、積丹竹ノ斑紋アルハ、最愛玩ニ供ス可シ、落葉ノ大ハ、  
殆袋笠ノ用ニ堪ヘタリ、昆布ハ、海草中ノ最盛ナル者、西  
海岸ハ、天鹽苦前ヲ推シ、東地ハ、三石、鯨泉ヲ良品トス、鮓、  
鰯、鱈、鰺、及蛇、帆立貝、煎海鼠、數子等ハ、海産ノ夥多ナル者

ナリ、鮭魚最盛大ニシテ、四方ニ輸出スル、毎歲數千萬  
石、實ニ全道第一ノ產物タリ、海獸ハ、海豹、海獺ノ類アリ、  
其得撫島ノ獵虎、内浦ノ臘腸、最貴重ノ品ニ屬シテ、千  
島及北見ハ、常ニ鯨獵ノ利アリ、野獸ハ、醜丹鳥ノ黑狐、頗  
奇種ト稱ス、有珠岬田ニ、馬多ク、勇拂沙流ニ、鹿多シ、馬ハ  
寛政中、陸奥ヨリ移シ、者ニテ、山谷ノ際ニ、羆皮、鷲羽  
ノ產アリ、礦物ハ、重山總テ是金銀銅鐵、且、炭、硫黃、最多  
シ、採掘ノ法、其盛ナルニ至ラバ、我邦富盛ノ基、此一鳥ノ  
管涉スル處、豈特ニ淺小ナリシト、